

2004年 環境報告書

Environmental Report



地球環境にやさしい会社を目指します

〈表紙のこぼれ〉

オオムラサキ

前ばねの長さが45～70mmと、日本に棲むタテハチョウの中では最大になるオオムラサキ。夏の林のなかで、クヌギなどの樹液に集まっています。気品ある姿から、日本昆虫学会によって1957年に国蝶に指定されました。ところが、里山の雑木林が失われるにつれ、幼虫の食樹であるエノキやエゾエノキが減り、次第に姿が見られなくなってきました。環境省が2000年に制定した新レッドデータでは、準絶滅危惧種として扱われています。



会社概要／「2004年環境報告書」について	2
ごあいさつ	3

経営方針

社是／伊藤ハムグループ企業理念／伊藤ハムグループ経営ビジョン	4
--------------------------------	---

コンプライアンス

企業倫理規範／推進組織／情報の開示及び共有化／意識調査の実施／ 講義／相談窓口の設置	5
---	---

環境報告

1. 環境基本方針 基本理念／行動指針	6
2. 3ヵ年計画の取り組み結果と自己評価	7
3. 私たちと環境との関係	9
4. 2003年度の活動ハイライト	11
5. 環境マネジメント 環境マネジメントの推進組織／環境監査の実施／ISO14001認証取得／グリーン購入／ 関係法規及び法の遵守／環境クレーム・事故／緊急時の対応策／環境会計	12
6. 環境負荷低減の取り組み 省エネルギーの取り組み／温室効果ガスと化学物質の排出抑制／廃棄物の削減と有効利用／ その他の環境負荷低減活動	15
7. 環境コミュニケーション 従業員教育／情報開示	19

社会性報告

1. 社会貢献活動基本方針 社会貢献活動理念／活動方針／推進組織	21
2. 社会とのかかわり 森林保護活動／クリーンアップ活動／ユニセフ支援活動／被災地救済支援活動／ ボランティア活動／社外関連団体への参加	22

環境データ集

伊藤ハムグループの環境データ	25
サイトデータ（伊藤ハム・関連会社）	26
環境保全活動の沿革	32

絵で見る伊藤ハムの環境活動・工場見学

会社概要 （2004年3月現在）

会社名 伊藤ハム株式会社

設立 1948年（昭和23年）

創業 1928年（昭和3年）

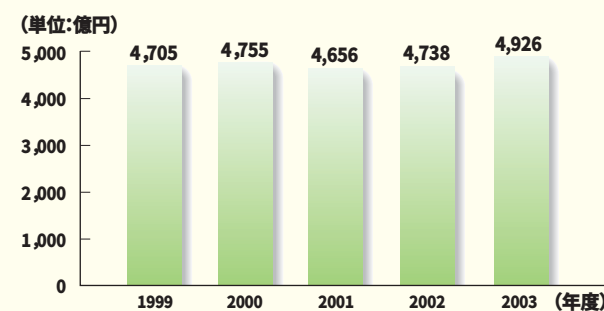
本社事務所 兵庫県西宮市高畑町4番27号

代表者 代表取締役社長 伊藤 正視

資本金 224億1,500万円

売上高 4,926億6,000万円（連結）

売上高の推移（連結）



連結対象会社 連結子会社／45社
持分法適用関連会社／11社

従業員数 2,191人（連結：5,777人）

主な事業 ● 食肉加工品の製造及び販売

● 食肉の加工及び販売

● 調理加工食品、惣菜類の製造及び販売
など

コアドメイン

- ハム・ソーセージ事業
- 食肉事業
- 調理加工食品事業

サテライトドメイン

- 乳製品事業
- 外食事業
- 医療品事業
- ワイン事業



グループ事業内容

サポートイングドメイン

- 輸入代行業
- 物流事業
- 人材派遣業

ソーシャルドメイン

- 伊藤文化財団
- 伊藤記念財団

2004年環境報告書について

編集方針

環境報告書は、伊藤ハムグループの環境マネジメントの考え方、取り組み内容とその結果、社会活動などを誠実にかつわかりやすくお伝えし、ステークホルダーの皆様方とのコミュニケーションを図り、環境保全活動に反映させることを目的に発行しています。

伊藤ハムグループとして5回目の発行となる本環境報告書は、

1. 会社基本項目
2. 環境報告
3. 社会性報告を大分類項目とし、環境側面のほか社会的側面も掲載しました。取り組みの結果である環境パフォーマンスについては、巻末に環境データ集としてとりまとめわかりやすくしました。また、なるべく多くの方に伊藤ハムグループの環境保全活動をわかりやすくご理解していただくために「絵で見る伊藤ハムの環境活動・工場見学」を設けました。

※ 環境省の「環境報告書ガイドライン（2003年度版）」に準拠して構成しました。

※ 環境報告書を幅広くお届けするために、弊社ホームページ上でも情報を公開しています。

※ 弊社の組織は、ディビジョン＝DIV、デパートメント＝DEPTの略称で表記しています。

対象範囲

〔組織〕 伊藤ハム株式会社：九州工場、六甲工場、西宮工場、豊橋工場、東京工場、船橋工場、北神加工センター
伊藤ハムデイリー株式会社：東北工場、小樽工場
伊藤ハム食品株式会社：小矢部工場

〔期間〕 2003年4月1日～2004年3月31日
※ 集計方法の見直しなどにより、「2003年環境報告書」に記載したデータを一部修正・変更して掲載した箇所があります。
※ 掲載している数値データは四捨五入しているため、合計及び増減のパーセントが合わない場合があります。
※ 環境パフォーマンス（関連会社の取り組み実績）にサンキョーミート株式会社の環境データを掲載しています。
※ 北神加工センターは、2004年2月末日に閉鎖しました。よって環境データは同月までのものを掲載しています。
※ 一部に2004年4月1日以降の活動内容が含まれています。

第三者認証について

環境報告書の信頼性や客観性を確保する上で第三者認証は重要であると考えますが、①第三者認証に関するガイドラインが制定されていないこと、②認証機関の資格要件が不明確であること、などから本報告書では取得していません。今後、ガイドラインの発行などによって、審査の客観性や公正性が確立された時点で、取得の時期や方法について検討していきます。

尚、掲載データについては、本社の所轄部門及び環境担当部門が内容確認・精査しています。

次回発行予定

2005年6月を予定しています。

はじめに

地球温暖化をはじめとする地球環境問題は、家庭・企業・行政などのさまざまな努力にもかかわらず、ますます深刻化しております。目まぐるしい技術革新と経済のグローバル化による、大量生産、大量消費、大量廃棄型の生産・消費パターンからの転換を図り、「活力ある持続可能な社会の構築」に向け、環境に配慮した経営が強く求められております。

こうした状況を背景に、弊社は1999年に制定した環境基本方針で、「基本理念」と「行動指針」及び「中期環境目標」を掲げました。さらに本年より「第2次中期環境目標」を策定し、従業員一人ひとりが環境意識を高め、事業活動を通じて環境保全に取り組んでまいります。

また、本年4月、「伊藤ハムグループ新中期経営計画」を策定いたしました。この計画はグループの経営理念として、企業の使命、経営ビジョン、経営者・従業員の倫理規範をうたい、高いコンプライアンス意識のもとに、よき企業市民として地球環境への配慮と社会貢献活動を大切にする企業活動を目指した企業像を策定したものです。

2003年度の取り組みと実績のご報告

生産部門におきましては、環境マネジメントのベースとなる国際規格ISO14001について、昨年5月船橋工場が認証取得しました。これで伊藤ハムのハム・ソーセージ及び調理食品の生産工場はすべて認証登録をいたしました。

生産活動に伴う環境負荷やエネルギー使用量を減らすコージェネシステムは、本社・西宮工場他4工場に導入しており、グループにおける電力・燃料などの総エネルギーの使用量は、2003年度を目標年とした中期目標を達成いたしました。

物流部門におきましては、グループ会社である食品物流のデイリー物流株式会社が、本年3月にISO14001を取得いたしました。また、大気汚染防止といたしまして、グループ全体で使用する営業車輛には、低公害車である「天然ガス自動車」をはじめとする「低燃費かつ低排出ガス車」を積極的に導入いたしました。さらに継続的にアイドリングストップ運動を実施しております。

地域社会とのコミュニケーションといたしまして、伊藤ハムグループの「社会貢献活動の理念と活動方針」を策定いたしました。その中で、昨年4月より、まず弊社の発祥の地である神戸市において、市民参加の健全な森林づくり、また森林ボランティアの養成にもつながる「こうべ森の学校」の運営に全面的な支援をいたしました。毎月、多くの市民の皆さんが森林づくりに積極的に参加されております。さらに、毎年9・10月の2ヵ月間を「社会貢献推進期間」と定め、全国の従業員と家族によるボランティア活動で地域における海岸のクリーンアップや森林保全、また地域社会で清掃美化活動などを積極的に行いました。これからも継続して地域社会の環境保全に努めてまいります。

この環境報告書は、2000年に発行して以来、弊社グループの環境保全活動の結果をご報告し、皆様との積極的なコミュニケーションを図り、環境対策のレベルアップにつなげることを目的にしております。2004年の発行にあたり、心新たに環境基本理念の「地球環境の保全と社会との共生」を図る努力をこれからも持続してまいります。

皆様からの忌憚のないご意見をいただければ幸甚に存じます。

2004年6月

代表取締役社長

伊藤 正視



経営方針



社は「事業を通じて社会に奉仕する」のもとに、地球環境と社会との調和を図りつつ、お客様の「信用」と「信頼」を大切にして企業価値を高めていくために、次のような「企業理念」「経営姿勢」「行動規範」を定めて実践しています。

社 是

事業を通じて社会に奉仕する

伊藤ハムグループ企業理念

1. 企業理念

お客様（顧客）の「信用」と「信頼」から「安全」と「安心」が生まれます。「安心」こそが伊藤ハムブランドのすべてです。ブランド力を日々強化し、企業価値を高めていく事が社会的貢献であり私達の使命です。

2. 経営姿勢

- 顧客中心主義に徹すると共に変化対応能力を高め、その実践を重んじます。
- 人事は能力主義、成果主義を重視し、何事にも挑戦意欲を尊び、活力ある職場を目指します。

3. 行動規範

- あらゆる法令や会社の規則を遵守し、社会的良識に沿って行動します。
- すべての業務は「受注」につながり、顧客の「リピート」に帰着します。そのような認識のもとに情報を共有し、スピードとコミュニケーションの大切さを心して考動します。
- 「強く 正しく 遅しく」の伝統精神のもと、自己責任原則を徹底します。

伊藤ハムグループ経営ビジョン

1. コーポレートブランドを高め続ける企業を目指します

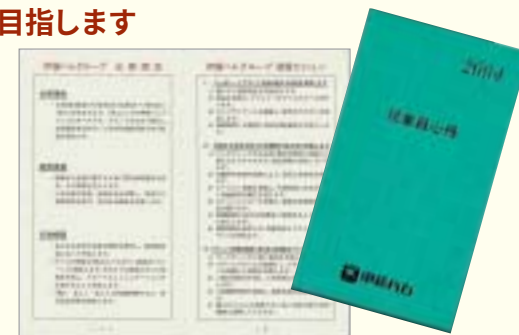
- 1) 限りなく顧客満足を高め続けます。
- 2) 株主を重視し、タイムリーなディスクローズを行います。
- 3) コンプライアンスを徹底し、社員のやりがいを尊重します。
- 4) 地球環境への配慮と社会貢献活動を大切にします。

2. 利益ある成長を続け企業価値の最大化を目指します

- 1) マーケティング力を高め、時代の変化に対応した新たなビジネスモデル、商品開発に挑戦していきます。
- 2) 各部門の技術の深耕により、品質と安全性を高めます。
- 3) ローコスト経営を推進し、外部環境に左右されない利益体質の確立を図ります。
- 4) キャッシュフローを重視し、強靱な財務体質の確立を図ります。
- 5) 時価総額を高め企業価値と信頼性をより大きなものとします。
- 6) 経営資源を集中させ、資産効率とコストパフォーマンスを高めます。

3. チャレンジ精神の高揚と活力ある企業風土づくりを目指します

- 1) マーケティングに強い会社を目指します。
- 2) フラットでスリムな組織とし、ムダを省きスピードを重視した経営を目指します。
- 3) 人事の流動化を促し、人材育成と能力開発を促進します。
- 4) 人事制度改革を推進し、成果主義の浸透を図ります。
- 5) 個人のスキルを重視すると共に女性の能力を積極的に活用していきます。



従業員心得



社は、企業理念及び経営ビジョンに基づき、お客様の満足を高め、健全で誠実な企業活動を行う上で守るべき考え方を「企業倫理規範」として策定しました。役員や従業員全員が倫理規範と行動指針を遵守し、高い倫理意識のもと、企業価値の向上を目指し取り組んでいます。

企業倫理規範

1. 公正な行動

伊藤ハムグループは、会社が社会の公器であるとの自覚と責任のもと、常に社会的良識に沿って公正に行動します。

2. 倫理観と遵法の精神

常に遵法に心がけ、確固たる倫理観をもって誠実に事業活動を行います。

3. 関係法令の社内徹底

事業活動に必要な関係法令の収集とその理解に努め、その遵守を確実にするため、社内規程の制定と教育・アナウンスなどを通じて社内徹底を図ります。



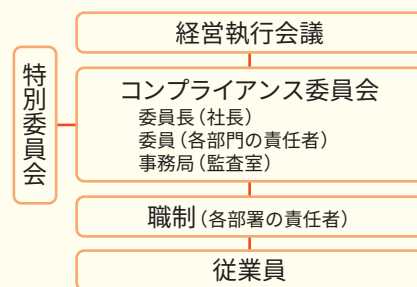
コンプライアンス・ハンドブック



4. 法令違反の早期是正と厳正対処

業務遂行活動が関係法令や社会的良識に反する場合は、速やかにその違反状態を是正し、再発防止に努めるとともに、違反行為に対して厳正に対処します。

推進組織



講義

従業員のコンプライアンスに対する意識・関心を高めるため、新入社員研修、階層別研修や部門研修、所長会議や店長会議などさまざまな場面でコンプライアンスについての講義を行っています。



講義風景

情報の開示及び共有化

従業員のコンプライアンス・マインドの浸透を図り、より一層の啓発活動を進めるために社内イントラネットや社内報でコンプライアンスに関する情報を開示しています。ハンドブック、推進規程、事例集、Q&Aや、相談窓口に関する情報を開示しています。



社内イントラネットの画面

相談窓口の設置

従業員がコンプライアンスに関することで困ったとき、悩んだときの相談先として次のような窓口を設置しています。

- A 社内相談窓口(監査室)
- B なんでも弁護士相談室(弁護士)
- C ユニオン相談ダイヤル(労働組合)
- D 人事ホットメール(人事DEPT)

なお、相談窓口の対応手順や通報・相談者の保護などについては、2003年10月に設けた「社内通報規程」に詳細を規定しています。

意識調査の実施

2004年1月には、勤続10年・20年・30年の社員を対象にコンプライアンス意識調査を行い、浸透状況を把握し、推進活動に役立てています。



1. 環境基本方針

「地球環境の保全と社会との共生」は経営の最重要課題の一つであり、そのための取り組みを積極的に行うことは企業の社会的責任の一つとして捉えています。1999年に制定した環境基本方針の中で掲げた基本理念と行動指針に基づき、グループ全従業員が一丸となったトータルな環境保全活動に計画的・継続的に取り組み、環境保全レベルの向上に努めています。

基本理念

私たちは地球規模の環境保全が、人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動を通じて環境に配慮し、その保全と社会との共生を図る努力を持続的に実践してまいります。

行動指針

1. 開発から使用・廃棄に至るすべての過程で環境影響に十分配慮した商品、及びサービスの開発推進を行います。
2. 環境に及ぼす影響を考慮し、環境目的・目標を定め、定期見直しにより環境保全の継続的改善を図ります。
3. 環境関連法・規制・条例・協定を遵守し、自主管理基準を定め環境保全活動に努めます。
4. 省エネルギー、省資源、及び廃棄物・温暖化物質・オゾン層破壊物質の排出削減を図るとともに、廃棄物の資源リサイクルを推進し、循環型社会形成の対応と地球環境負荷低減に努めます。
5. 外部・内部監査を定期に実施し、自主管理の徹底を図ります。
6. 社内外の環境教育及び社内広報活動を通じて、従業員に環境基本方針の理解と環境保全意識の向上を図ります。
7. 海外事業活動において、当事国における環境保全に十分配慮します。
8. 環境基本方針及び環境保全と活動結果について、環境報告書により情報開示します。

2. 3ヵ年計画の取り組み結果と自己評価 を発表します

1999年2月に策定した「伊藤ハムグループ環境基本方針」に沿い、環境保全活動を進めてまいりましたが、より一層活動を進めるため2000年度に「第1次中期環境目標」を設定しました。中期目標は、1999年度を基準年とし、2001年度から3ヵ年の目標としております。

第1次中期環境目標の結果

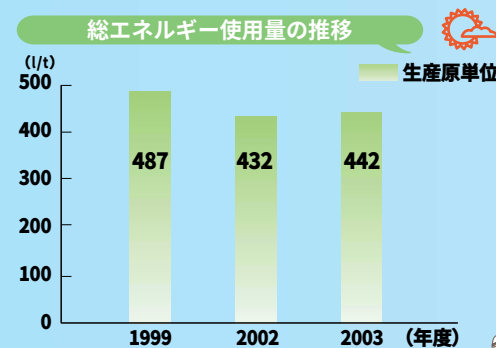
中期環境目標	目 標 値	結 果
1) 省エネルギー、省資源の推進	・総エネルギー使用量を5%削減 ・用水使用量を10%削減	・総エネルギー使用量を9.2%削減 ・用水使用量を9.3%削減
2) 廃棄物の削減とリサイクルの推進	・廃棄物排出量を10%削減 ・リサイクル率100%	・廃棄物排出量は3.8%増加 ・リサイクル率は89.4%
3) 温室効果ガスの排出削減	・二酸化炭素(CO ₂)の排出量を8%削減	・二酸化炭素(CO ₂)の排出量は3.5%増加
4) 環境管理体制の充実	・グループの10事業所でISO14001を認証取得 ・環境監査の継続実施	・13事業所が認証取得(但し、1事業所は2004年2月に閉鎖) ・対象22事業所の環境監査を継続実施

※ 1)～3)は生産原単位 総エネルギー:原油換算(購入電力+燃料+購入蒸気)

省エネルギー、省資源の推進

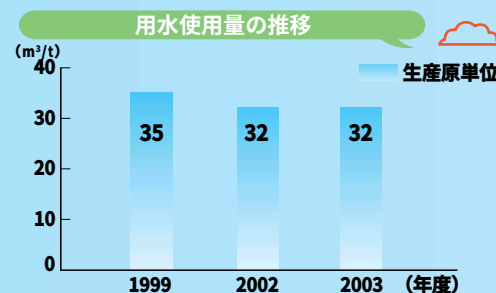
総エネルギー使用量の削減

環境マネジメントシステムの運用によるエネルギー管理の強化と、2001～2002年度に4工場で導入したコージェネシステムの稼働により、総エネルギー使用量は生産原単位5%削減の目標に対し、9.2%削減できました。



用水使用量の削減

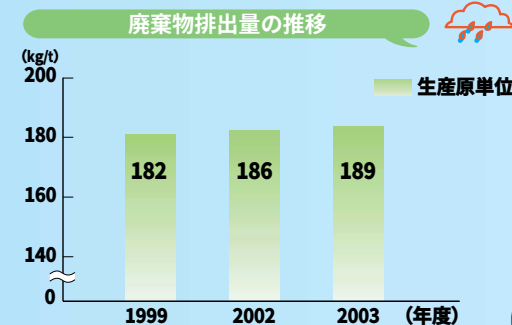
レトルト設備や凝縮機など生産設備の2次冷却水を再利用し、用水の有効利用を進めるとともに、作業場に用水メーターを取り付け、水管理の強化を進めました。その結果、用水使用量は目標達成には至りませんでしたが生産原単位で9.3%削減できました。



廃棄物の削減とリサイクルの推進

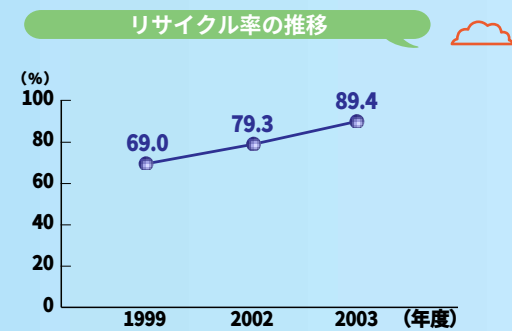
廃棄物排出量の削減

コンピュータを使用した「廃棄物計量システム」を導入し、廃棄物の種類や排出量を把握・分析するなどして管理の強化を進めました。しかし、基準年より生産量が増加したことや、生産品目の構成が変化したことなどにより廃棄物の排出量は生産原単位で3.8%の増加となりました。



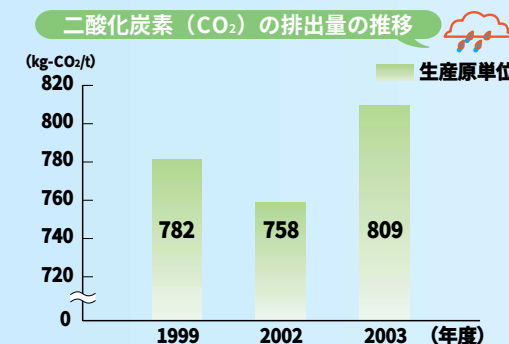
リサイクルの推進

廃棄物のリサイクル100%を目指し、分別の徹底とリサイクル化の研究を進めましたが、残念ながら2事業所で100%を達成したにとどまりました。しかし、全体のリサイクル率は89.4%となり、基準年より20.4ポイント向上しました。



温室効果ガスの排出削減

蒸気ボイラーを高効率型へ交換したり、燃料をLPガスから天然ガスに転換するなど、二酸化炭素(CO₂)の排出削減対策を実施し削減に努めました。しかし、ハム・ソーセージの燻煙対策に新たな焼煙設備の導入や、西宮工場を除く他の工場では重油燃料を使用したコージェネシステムを導入したため、二酸化炭素の排出量は基準年より生産原単位で3.5%増加しました。

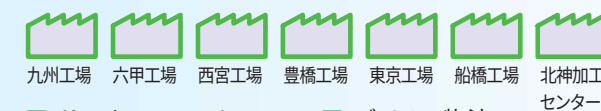


環境管理体制の充実

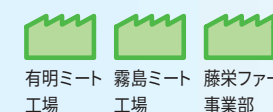
ISO14001の認証取得

事業所における環境管理の充実強化を図るためISO14001の認証取得を進め、国内で11事業所、海外で2事業所の合計13事業所が認証取得しました。2003年5月で伊藤ハムの生産工場はすべて認証取得を完了しました。

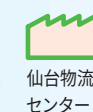
伊藤ハム



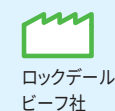
サンキョーミート



デイリー物流



オーストラリア



ニュージーランド



環境監査の継続実施

計画完全実施

環境監査の継続実施につきましては、事業所独自の内部監査以外に本部を中心とした監査チームが、22事業所を対象に延べ35回にわたる環境監査を実施いたしました。環境関連の遵法関係や環境プラントで特に問題となる重要な指摘事項はありませんでした。

2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
計画8事業所 実施8事業所 済	計画14事業所 実施14事業所 済	計画8事業所 実施8事業所 済	計画5事業所 実施5事業所 済

自己評価

マーク	評価の基準
🔥	2003年度の実績値が目標値の105%以上でした。
🔥👉	2003年度の実績値が目標値を上回りました。
☁️	2003年度の実績値が目標値を下回りましたが、基準年度より改善されました。
☁️👉	2003年度の実績値が基準年度を下回りました。継続して、より一層取り組みを進めます。

第2次中期環境目標

2004年4月に策定された「伊藤ハムグループ新中期経営計画」にともない、「第2次中期環境目標」を設定しました。第2次中期環境目標は、2003年度を基準年とし、2004年度から3ヵ年の目標としております。全従業員が一丸となって目標達成に積極的に取り組んでいきます。

中期環境目標	目 標 値	2004年度	2005年度	2006年度
1) 省エネルギー、省資源の推進	・総エネルギー使用量を4%削減 ・用水使用量を4%削減	▲1.5% ▲1.5%	▲3.0% ▲3.0%	▲4.0% ▲4.0%
2) 廃棄物の削減とリサイクルの推進	・廃棄物排出量を4%削減 ・リサイクル率100%	▲1.5% 93%	▲3.0% 96%	▲4.0% 100%
3) 温室効果ガスの排出削減	・二酸化炭素(CO ₂)の排出量を4%削減	▲1.5%	▲3.0%	▲4.0%
4) グリーン購入の推進	・事務用品のグリーン購入率 80%(金額ベース) ・事務機器のグリーン購入率 80%(数量ベース)	70% 70%	75% 75%	80% 80%
5) 環境管理体制の充実	・グループ会社のISO14001認証取得の推進 ・環境監査の継続実施			

※ 1)～3)は生産原単位

環境活動Q&A

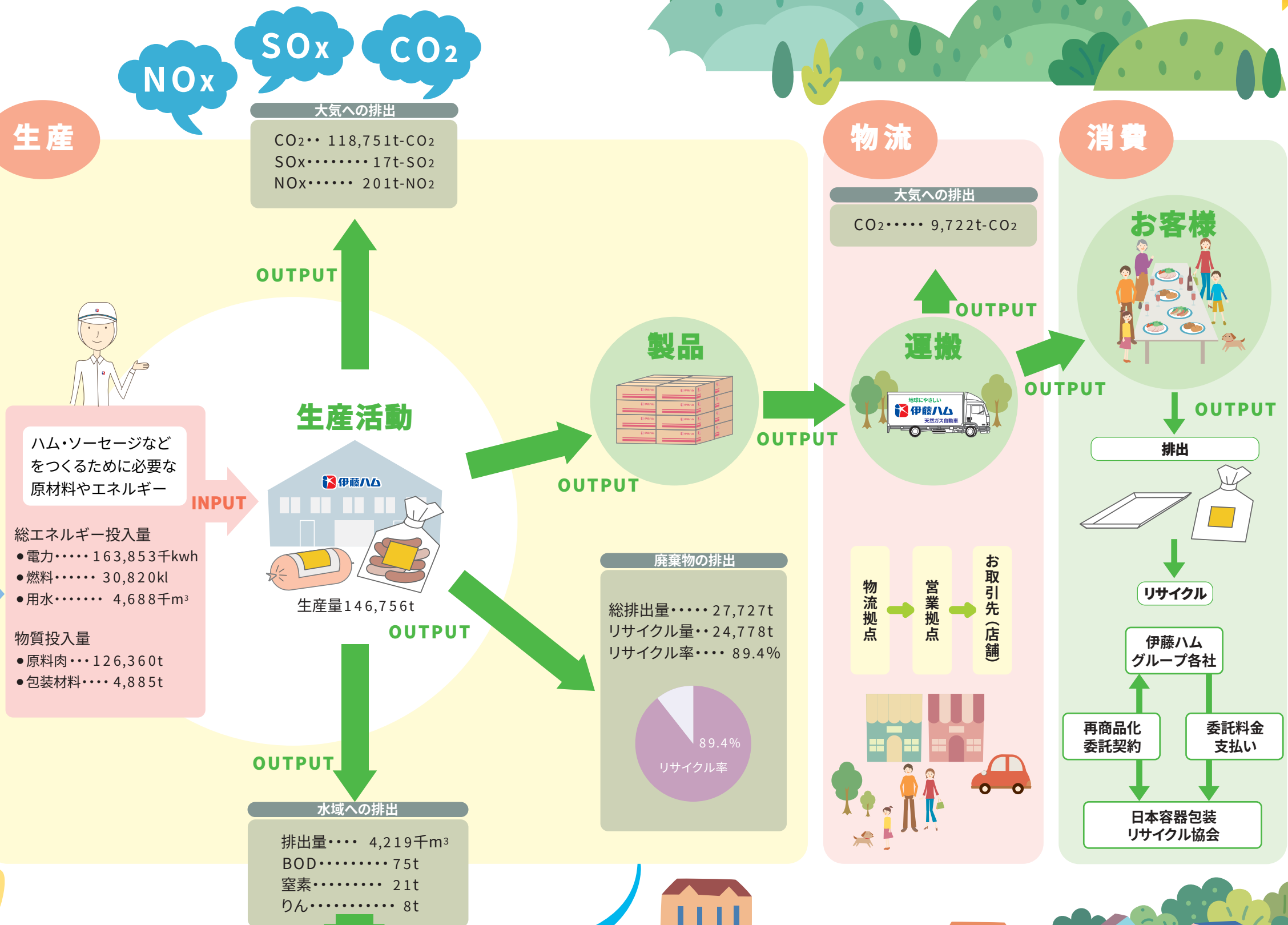
Q 環境目標の進捗状況はどのようにして管理しているの？

A 電気、燃料、用水の使用量や廃棄物の排出量などの環境データは、各工場から環境安全推進室へ毎月報告されます。環境安全推進室でデータをとりまとめ社内に表示することにより、生産部会などの会議の席上で議題として取り上げ進捗状況を確認しています。

3. 私たちと環境との関係をご紹介します

環境への負荷を低減するためには、事業活動が環境に与えている負荷の全体像を継続的かつ定量的に正しく把握し、資源の有効利用と環境負荷物質の排出量を削減することが不可欠であると考え、環境負荷を低減するためのさまざまな取り組みを進めています。

右図は、2003年度の生産・物流工程における資源・エネルギーなどの投入と環境への排出状況を表しています。今後も継続して資源の有効利用、環境負荷物質の排出量の削減に取り組んでいきます。



環境活動Q&A

Q 「工場のゼロエミッション」に取り組む企業が増えていくと聞きますが、ゼロエミッションとはなにか？

A 資源循環型の社会システムの構築を目指し、あらゆる廃棄物を原料などとして有効活用することにより、廃棄物を一切出さないことです。伊藤ハムグループはゼロエミッションを目指し、廃棄物を削減することにも、リサイクル率の向上を促進します。

4. 2003年度の活動ハイライト



「2004年環境報告書」では、伊藤ハムグループの環境保全活動全般についてご報告していますが、ここでは2003年度に行った環境保全活動と社会活動の取り組みをハイライトでご紹介します。

コージェネシステムが本格稼動

詳しくは15ページ



西宮工場、九州工場、豊橋工場、伊藤ハムデイリー（株）東北工場のコージェネシステムが本格稼動し、エネルギーの有効利用の取り組みを進めました。



コージェネシステム（九州工場）



コージェネシステム（東北工場）

省エネルギーの取り組み

詳しくは15ページ



電力、燃料の使用量削減のため、冷凍機など使用設備の高効率型への変更や、負荷に合わせた効率的な運転を行うなど省エネルギーの取り組みを進めました。



用水ポンプ（西宮工場）



冷凍機（東北工場）

廃棄物の削減と有効利用

詳しくは17ページ



廃棄物の削減と有効利用を進めるために、工場ではエコステーション（廃棄物集積場）の整備とコンピュータによる廃棄物計量システムの導入を進めています。



エコステーション（豊橋工場）



エコステーション（小矢部工場）

環境監査の実施

詳しくは12ページ



2003年度はグループ5工場の監査を実施しました。環境監査は監査実施基準や手順書に基づいて実施しています。

環境基準一覧INDEX



環境基準書



環境監査
（北神加工センター）

伊藤ハムすべての工場でISO14001認証取得

詳しくは13ページ



2003年5月、船橋工場が認証取得したことにより伊藤ハムの生産工場はすべて認証取得を完了しました。



ISO本審査（船橋工場）



環境の社会活動

詳しくは22ページ



森林保護ボランティア活動やビーチクリーンアップ、事業所周辺の清掃活動など、各地域において環境の社会活動に取り組みました。



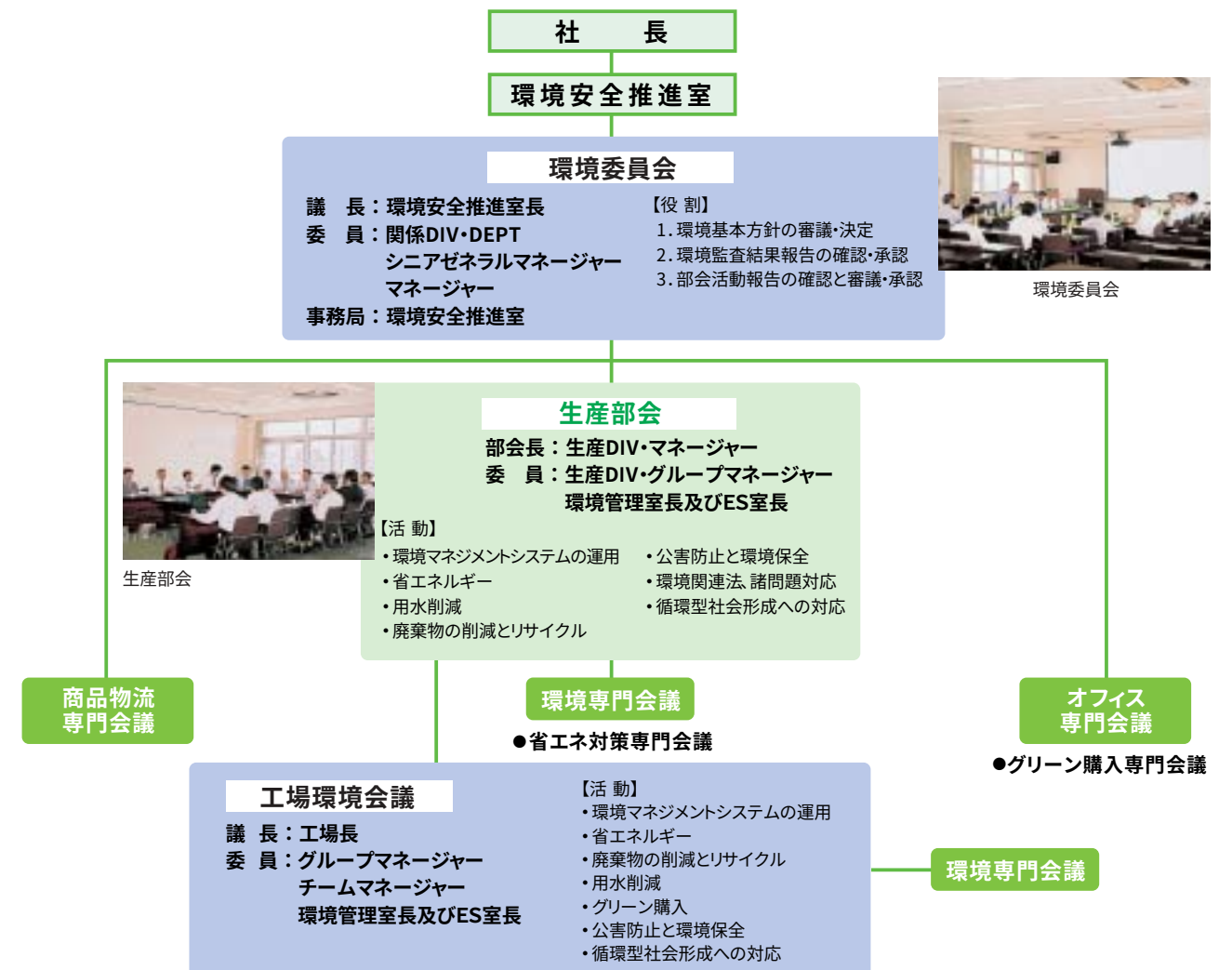
ビーチクリーンアップ（甲子園浜）

5. 環境マネジメント

環境保全活動をより効果的に行い、持続可能な社会の構築に貢献し、社会的な責任を果たしていくために環境マネジメントシステムを構築し運用しています。

環境マネジメントの推進組織

環境マネジメントを推進し、さまざまな環境関連問題に対して迅速かつ円滑に対応できるような環境管理体制を構築しています。環境基本方針や中期の課題・目標設定など全社的な事項は「環境委員会」で審議・決定し、工場主体で対応する事項は工場環境会議で審議・実行しています。また、発生する諸問題へは、時限的に専門部会を設置して対応しています。環境委員会での決定事項については、会社組織や各部会などを通じて全事業所に周知徹底しています。



環境活動Q&A

Q 生産工場の日々の環境管理活動はどのように行っているの？

A 生産工場には環境管理室（あるいはES室）などの、環境管理活動を専門に行う組織を設けています。環境管理室のメンバーを中心に、生産現場の協力を得て、省エネ・省資源、排水・廃棄物の管理など環境管理活動を進めています。

環境監査の実施

環境汚染や環境事故を未然に防止し、環境保全活動のより一層のレベルアップを図るために、事業所内で実施する内部環境監査のほかに、本社環境安全推進室と工場環境管理責任者などで構成する監査チームが、年度の環境監査計画に沿って主要事業所の監査を行っています。

2003年度に監査した事業所

伊藤ハム：船橋工場・北神加工センター

関連会社：伊藤ハムデイリー（株）東北工場・小樽工場

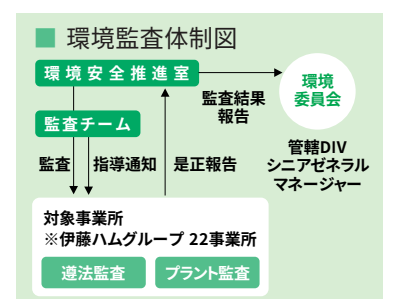
伊藤ハム食品（株）小矢部工場

監査項目

環境関連法遵守状況、公害防止管理、廃棄物管理、化学物質管理、環境パフォーマンス管理 など

監査結果

2003年度の監査の結果、遵法状況と環境関連施設などの管理状況に、大きな問題はありませんでした。



ISO14001 認証取得

環境マネジメントを効果的に行い、継続的な改善を実施するために、国際標準規格であるISO14001の認証取得を進めています。2003年5月に船橋工場が認証取得したことにより、伊藤ハムの生産工場はすべて認証を取得しました。現在、関連会社において認証取得を進めており、グループ全体における環境マネジメントの充実に取り組んでいます。

グリーン購入

グリーン購入基本方針とガイドラインを制定し、省エネ・省資源など、環境に配慮した文房具・事務用品・OA機器・電灯器具類等の優先的な購入に取り組んでいます。

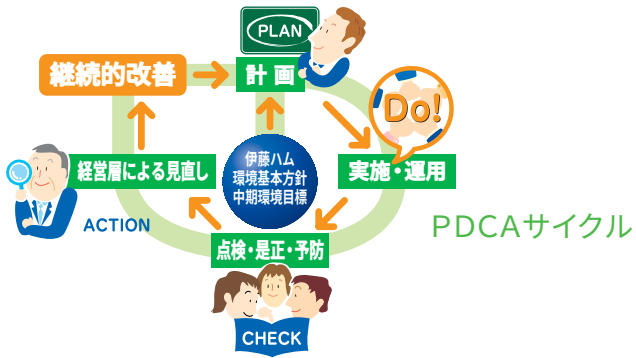
グリーン購入基本方針

持続可能な社会の実現に向け、環境に与える負荷ができるだけ小さい製品の優先的購入を進める必要があります。そこで、弊社は資源採取から廃棄までの製品のライフサイクルを考慮して、「環境汚染物質の削減」、「省エネルギー・省資源」、「持続可能な資源の利用」、「長期使用可能」、「再生素材等の利用」、「処理・処分の容易性」などの観点から製品、資材等の購入を行い、「廃棄物の減量化」と「環境負荷の低減」を目指します。

関係法規及び法の遵守

伊藤ハムグループの企業倫理規範に基づき、事業活動にかかわる環境関連法や各地域の環境保全協定の遵守はもちろんのこと、より厳しい自主基準値を設けて環境負荷の低減と環境汚染の未然防止に努めています。伊藤ハムグループの生産工場に適用される環境関連法の主なものには次のようなものがあります。

- 大気汚染防止法
- 水質汚濁防止法
- 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）
- 食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律（食品リサイクル法）
- 資源の有効な利用の促進に関する法律（リサイクル法）
- 容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）
- 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保に関する法律（フロン回収破壊法）
- 特定の化学物質の環境への排出量等の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）
- エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネルギー法）
- 労働安全衛生法
- 自治体との環境保全協定 など



環境クレーム・事故

2003年度の環境クレーム・事故

区分	件数	内容	対応策
悪臭	1件	2003年 9月 伊藤ハムデイリー（株）東北工場 宮城県栗原保健福祉事務所 →廃水処理の脱水機からの悪臭	基準書に基づき悪臭濃度を測定し、測定結果について監視を強化しました。
水質汚濁	1件	2004年 1月 北神加工センター 西宮市環境監視センター →排水の油脂分が地域の川に流入し川辺に付着	川辺の油脂付着物を除去し、施設内外のビッドから排水流出口までの配管清掃と流出防止のための配管変更工事を行いました。
法違反	なし	今後も継続して法規制遵守に努めます。	

大気汚染、騒音、振動などその他の環境問題に関する苦情はありませんでした。

緊急時の対応策

サイトの管理範囲外や敷地外への環境汚染や事故などの突発的事態を想定し、影響の拡散を防ぎ汚染を最小限に抑えるとともに、早期に修復するために、環境マネジメントシステムの緊急時の処置手順に沿って定期的に訓練を実施しています。万一事故が発生したときには、社内間での連絡と地域住民、行政機関への連絡を円滑に行うため、「環境関連の緊急時連絡システム」を運用しています。



環境会計

2001年度より導入した環境会計は3期目を迎え、より精度の高いものになっています。集計は、環境省「環境会計ガイドライン（2002年度版）」に準拠した「伊藤ハムグループ環境会計集計マニュアル（2002年度版）」により集計しています。

集計方法

- ① 投資額及び減価償却費は、100％環境目的のもの他、環境改善機能を有する生産設備については按分集計しています。
- ② 環境保全効果及び経済効果については、効果の総量（総金額）と原単位調整量（金額）の両方で集計しました。
- ③ 公表フォーマットは「環境会計ガイドライン（2002年度版）」に沿っています。

2003年度の集計結果

集計期間：集計期間：2003年4月1日～2004年3月31日

集計範囲：伊藤ハム株式会社（九州工場、六甲工場、西宮工場、豊橋工場、東京工場、船橋工場、北神加工センター）
伊藤ハムデイリー株式会社（東北工場、小樽工場）
伊藤ハム食品株式会社（小矢部工場）

環境保全コスト（単位:千円）

分類	主な取り組み内容	投資額	費用額
事業エリア内コスト		184,137	1,179,253
公害防止コスト	廃水処理設備の改善・環境関連設備の維持管理	149,835	625,182
地球環境保全コスト	省エネルギー設備の設置、対策費用	28,738	147,902
資源循環コスト	廃棄物のリサイクル及び処理処分費用	5,564	406,169
上・下流コスト	容器包装リサイクル委託料	600	85,425
環境活動コスト	ISOマネジメントシステムの構築及び維持、社員教育費他	1,550	87,301
研究開発コスト		0	0
社会活動コスト	工場緑化・その他の環境活動費用	0	32,523
環境損傷対応コスト	重油燃料使用にともなう汚染賦課金	0	2,911
合計		186,287	1,387,413

環境保全効果

効果の内容		指標の分類	指標の値	
			総量	原単位調整量
事業エリア内コストに対応する効果	事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギーの投入 (kl)	▲428	▲1,394
		用水の投入 (千m ³)	23	▲47
	事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	二酸化炭素 (CO ₂) の排出 (t)	▲5,886	▲7,579
		廃棄物の排出 (t)	▲244	▲656

*指標の値 総量：前期に対する削減量【前期投入量（排出量）－当期投入量（排出量）】
原単位調整量：生産原単位を加味した削減量【前期投入量（排出量）×（当期生産量／前期生産量）－当期投入量（排出量）】
*エネルギーの投入量は購入電力、燃料、購入蒸気を原油換算した値 (kl)

環境保全対策にともなう経済効果（単位:千円）

効果の内容		総金額	原単位調整金額
収益	廃棄物のリサイクルによる収益	2,136	2,192
費用削減	省エネルギーによるエネルギー費の削減（電力＋燃料＋購入蒸気）	26,711	15,786
	用水削減による経費の削減	▲3,349	▲9,158
	廃棄物処理費の削減	▲35,914	▲41,514

*指標の値 総金額：収益…当期収益
費用削減：前期に対する費用削減額【前期費用－当期費用】
原単位調整金額：生産原単位を加味した費用削減額【前期費用×（当期生産量／前期生産量）－当期費用】

環境活動 Q&A

Q ISO14001 認証取得後には審査機関による監査はないの？

A 認証取得から3年後に審査機関の更新審査を受けなければなりません。それまでも原則1年に1度、定期サーベイランスを受けます。審査機関からの指摘・要求事項を改善し、さらなる継続的改善に取り組みます。

6. 環境負荷低減の取り組み

ハム・ソーセージ・調理加工食品の生産工程やオフィス部門などにおいて、電力・燃料・用水使用量の削減、温室効果ガスや廃棄物の排出量削減など、事業活動にともなう環境負荷の低減に向けた取り組みを積極的に進めています。

省エネルギーの取り組み

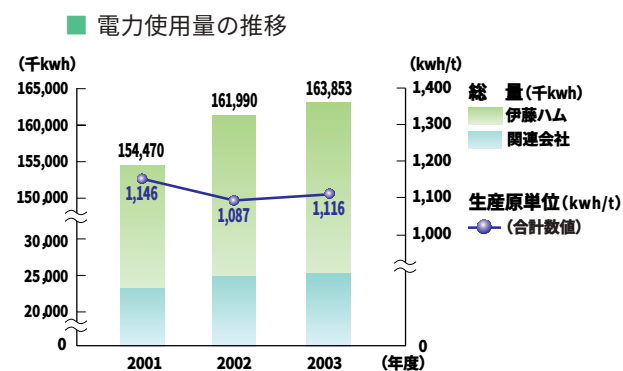
ハム・ソーセージ・調理加工食品を生産する過程で消費するエネルギーは、伊藤ハムグループの事業活動にともなう環境負荷の中で大きな比重を占めています。これらの環境負荷を低減するために、エネルギー使用量の削減を中期環境目標の重要な指標として掲げています。現在、2003年度を基準年度、2006年度を目標年度とする第二次中期環境計画（目標）に沿い、エネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

電力使用量の削減

2003年度の使用量は前年度比1.2%増加、また生産原単位でも2.7%増加しました。生産品目の構成が変化し、省エネルギー対策での吸収ができませんでした。年度中に実施した省エネルギー対策は、高効率型の冷凍機への交換、間接冷却方式から直接冷却方式への変更、集中冷却方式から個別負荷対応の設備への変更、高効率型エアコンプレッサ、高効率型照明器具の採用などを実施しました。

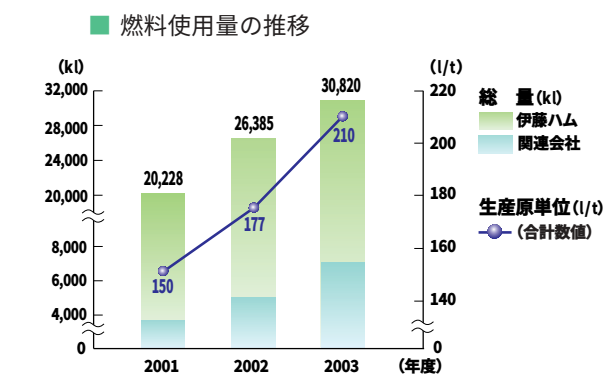


高効率型冷凍機（西宮工場）



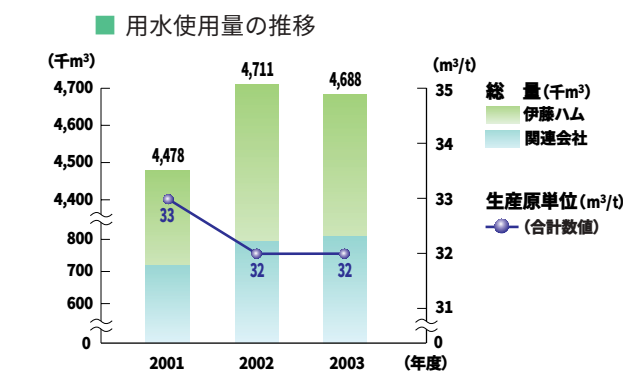
燃料使用量の削減

2003年度の燃料使用量はコージェネシステムの稼働により前年度比16.8%増加、また生産原単位でも18.6%増加しました。燃料使用量の削減についてはISO14001マネジメントシステムの中で管理しています。職場ごとに削減目標を設定し、進捗を管理しています。



用水使用量の削減

2003年度の用水使用量は前年度比0.5%減少しましたが、生産原単位は生産品目の構成が変化するため、1.0%増加しました。用水使用量削減についても、燃料使用量同様ISO14001マネジメントシステムの中で管理しています。



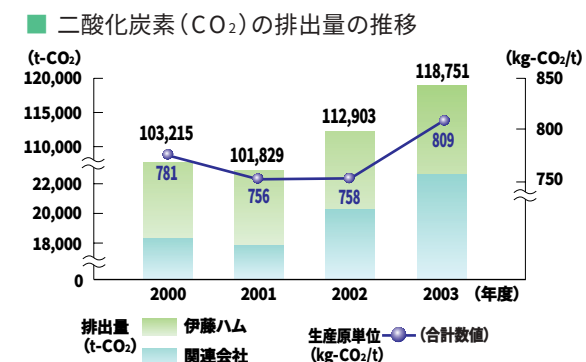
温室効果ガスと化学物質の排出抑制

地球温暖化の防止のため、事業活動にともなう温室効果ガスの排出抑制に取り組んでいます。省エネルギーに努め、使用する燃料を温室効果ガス排出係数の低い燃料へ転換することなどにより、二酸化炭素（CO₂）その他の温室効果ガスの排出抑制に努めています。温室効果の高いHCFC-22（冷凍設備の冷媒）は、系統内の漏洩を防止するために定期的にガス漏れ検査を実施し、環境への流出防止に努めています。

温室効果ガスの排出抑制

温室効果ガスの排出を抑制するために、特に排出量が多い二酸化炭素については、その削減を中期環境目標の指標として掲げて取り組みを進めています。

九州工場では、ボイラーの運転や製品の加熱に使用する焼成機の燃料をLPGから天然ガスに転換しました。2003年度の二酸化炭素排出量は、生産品目の構成が変化したために、総量で118,751tとなり、前年度比5.2%増加しました。その他の温室効果ガスの排出量は、メタン（CH₄）12,843kg、一酸化二窒素（N₂O）669kgとなりました。HFC、PFC、SF₆の排出はありません。



大気汚染物質の排出抑制

法律で規制された設備による大気汚染物質は、生産工場ごとに規制値より厳しい自主基準値を設定して管理し、排出抑制に取り組んでいます。法規制されていない燃焼設備（燻煙装置等）の排気ガス浄化対策も継続的に進め、環境改善に取り組んでいます。



ガス式消煙装置（西宮工場）

化学物質の排出抑制

化学物質の排出抑制、PRT法の対象物質であるHCFC-22、エチレングリコールが冷凍設備に使用されており、管理を強化して排出の抑制に努めています（03年度HCFC排出量は9,200kg）。その他の化学物質では、消火設備のハロン1301がありますが、2003年度の排出はありませんでした。



フロンガスの漏洩検査（東京工場）

環境活動Q&A

Q 工場の作業場で清掃に使用された水はどこに流れていくの？

A 作業場からの排水管を経て、廃水処理設備に流れます。そこで汚濁物と水を分離、法令や条例で定められた排水基準まで浄化した後、下水道や河川などへ放流しています。汚濁物（汚泥）は廃棄物処理施設に搬送し、リサイクルされ土壌改良剤となります。

TOPICS

営業車両の天然ガス自動車、合計31台に

昨今、運輸部門の二酸化炭素排出量が非常に多量であり地球温暖化に影響を与えていること、また大気汚染を防止するために「自動車NOx・PM法」や条例により規制が強化されるなど自動車排出ガスに関する問題が大きく取り上げられています。

伊藤ハムグループでは、これらの問題に対応するため1998年度より天然ガス（CNG）自動車の導入を進めています。

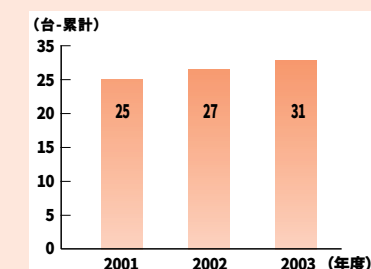


天然ガス（CNG）自動車

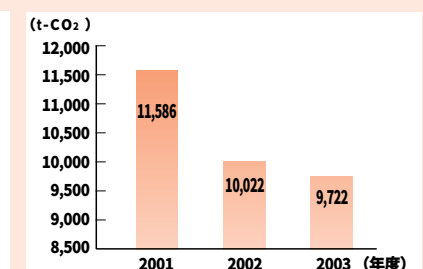


アイドリングSTOP!!
営業車両に表示している
アイドリングストップシール

天然ガス自動車導入実績の推移



物流部門の二酸化炭素排出量の推移



TOPICS

コージェネシステムの導入と稼働状況

2003年度には、西宮工場（発電機出力1,166kw）、九州工場（発電機出力2,970kw）、豊橋工場（発電機出力3,465kw）、伊藤ハムデイリー（株）東北工場（発電機出力2,970kw）のコージェネシステムが本格的に稼働しました。電力は工場の生産動力として利用し、エンジンから発生する廃熱は回収して、生産工程で使用する蒸気や温水をつくり利用しています。今後もエネルギーの有効利用に努めていきます。

2003年度の総エネルギー生産原単位 （1tの生産に必要なエネルギー）＊原油換算

工場名	原単位 (l/t)	前年度比 (%)	備考
九州工場	509	1.5	2002年 8月稼働
西宮工場	414	▲4.1	2001年 7月稼働
豊橋工場	481	▲3.8	2002年 9月稼働
東北工場	583	▲1.3	2002年 8月稼働

環境負荷低減の取り組み

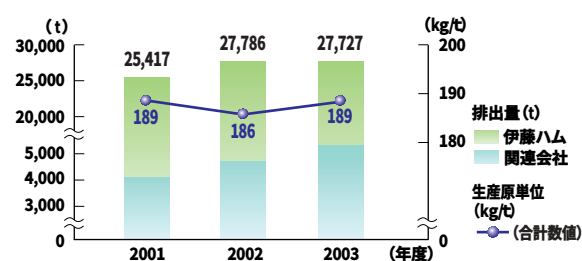
廃棄物の削減と有効利用

事業活動にともなう廃棄物の発生抑制と有効利用は、省エネルギーとともに中期環境目標の重要な指標となっています。特に、廃棄物を多量に排出する生産工場では、コンピュータによる廃棄物計量システムを設置、そこから得た排出データを分析し、部署ごとに削減目標を定めて発生抑制に向けた対策を実施しています。発生した廃棄物ごとにリサイクルを検討し、単純焼却や埋め立て処分を最小限にする取り組みを進めています。

廃棄物の削減

原料処理工程における歩留まりの向上や生産工程の改善により、食品廃棄物の削減に取り組むとともに、包装工程における包装フィルムの切り替え時の廃棄ロス削減などによる廃プラスチック類の削減に取り組みました。しかし、2003年度は生産構成の変化などにより、廃棄物排出量が生産原単位で189kgとなり、前年度比1.6%の増加となりました。

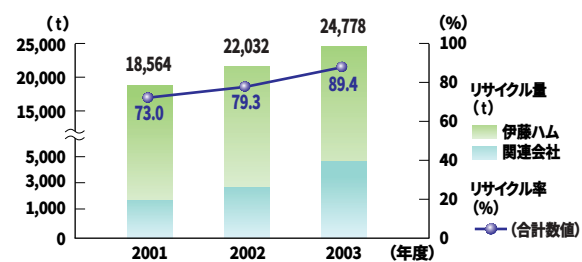
■ 廃棄物の排出量の推移



廃棄物の有効利用

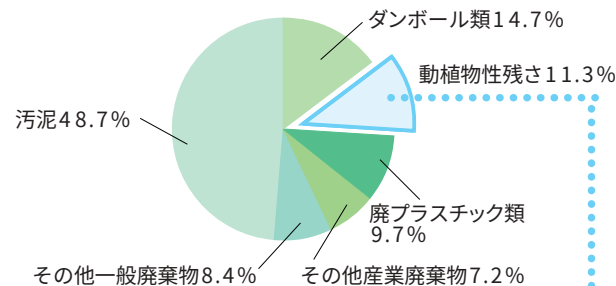
廃棄物の分別を徹底し、廃棄物ごとの有効利用を進めた結果、リサイクル率は前年度比10.1%アップし89.4%となりました。今後、リサイクルが遅れている廃棄物のリサイクルを進めるための施策を検討し、リサイクル率100%を目指し取り組みを進めます。

■ リサイクル量とリサイクル率の推移



排出量の割合

生産工場から排出される廃棄物の割合は次のとおりです。



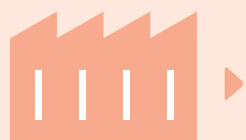
食品廃棄物のリサイクル

食品リサイクル法では、生産工程などで発生する食品廃棄物の再生利用率を2006年までに20%以上に向上させなければならないとされています。

伊藤ハムグループの生産工場では、規格に合った原料を仕入れて使用の合理化に努めたり、食品加工機械やコンペアーに受け皿やカバーを取り付けるなどの工夫をして発生の抑制に努めています。生産工程で発生したくず肉・脂などの食品廃棄物は、リサイクルに支障をきたさないように分別を徹底し、肥料や飼料などへリサイクルしています。※現在、10工場の食品廃棄物のリサイクル率は、83.1%となっています。

TOPICS

食品廃棄物のリサイクルのフロー



西宮工場、六甲工場から排出する食品廃棄物（動植物性残さ）は、外部の再生処理施設に搬送し、木屑やその他の有機性残さと混合し、発酵装置で発酵後熟成されて有機肥料になります。他の工場についても概ね同様のフローで食品廃棄物のリサイクルに取り組んでいます。



再生処理施設の全景



収集運搬



発酵



有機肥料

その他の環境負荷低減活動

オフィス関係

オフィスでは、文具・事務用紙・事務機器類のグリーン購入に取り組んでいます。また各部門に「IT推進担当者」を配置して、業務におけるペーパーレス化を進めています。

廃棄物の排出については、紙・プラスチック・ペットボトルなど廃棄物の種類ごとに分別箱を設置し、リサイクルに支障をきたさないように分別排出を行っています。

本社・西宮工場の従業員食堂のフリースペースには、従業員と環境にやさしいガーデンテラスを設けました。



本社食堂のガーデンテラス



本社事務所内に設置しているリサイクルBOX

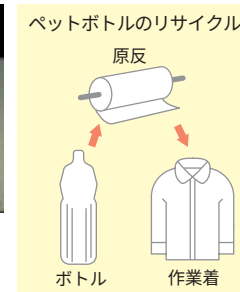
工場関係

2002年度より、従業員が着用する作業着の素材に「使用済みペットボトルを再生した繊維」を生産DIVの一部の工場で試験的に採用しましたが、2003年度中に生産DIVのすべての工場に導入しました。

混紡率:ポリエステル85%、綿15% (再生ポリエステル55%使用)



再生ペット樹脂を使用した作業着



TOPICS

廃水処理施設で浄化した水を散水に利用

芝生へ散水するために散水装置を設置していますが、散水に使用する水は廃水処理施設で浄化した水を有効利用しています。



商品の環境負荷低減

商品については、主として商品の包装材の減量や有害物質の除去などの環境負荷低減に取り組んでいます。

● さわやかパックシリーズ包装材の減量

スライスパックの主力商品「さわやかパックシリーズ」では、包装材に脱塩素系フィルムを使用するとともに、トレイパックの底材の厚みを減らすことにより包装材の使用量を減らすなど、商品使用時の環境負荷の低減に取り組んでいます。

● あらびきグルメウインナーの包装材に水溶性インキを使用

ウインナーの主力商品「あらびきグルメウインナー」では、包装材に環境にやさしい水溶性インキを使用しています。水溶性インキは、有機溶剤を使用せずに、溶剤に水とアルコールのみを使用し、有害化学物質を排出しない環境にやさしいインキです。



識別表示、材質表示

2001年4月より、従来のスチール缶やアルミ缶、ペットボトルに加えて、プラスチック製容器包装と紙製容器包装への識別表示も義務化されています。

● 包装材の識別表示・材質表示の実施

資源有効利用促進法により義務づけられているプラスチック製容器包装と紙製容器包装に識別表示を実施しています。プラスチック製容器包装については、リサイクル推進のために材質表示を併せて実施しています。

● ダンボールの識別表示

資源有効利用促進法ではダンボールの識別表示は義務化されていませんが、自主運用によりダンボールの識別表示を進めています。



包装紙とバッグ



ダンボールの識別表示

環境活動Q&A

Q
いらなくなった作業着はどうしているの？

A
汚れたり、破れたりして不用になった作業着は、作業着のメーカーの施設でケミカルリサイクルし、繊維として再生利用されています。



7. 環境コミュニケーション

伊藤ハムグループでは、地球環境問題への取り組みや社会活動に関連する情報などを、さまざまな手段で幅広くお知らせしています。また、これらに対するご質問やご意見をいただく窓口を設けています。環境・社会活動をより一層進めるためには、弊社とステークホルダーの皆様方との双方向のコミュニケーションが不可欠であると考え、次のような教育・啓発活動と広報活動を実施しています。

従業員教育

従業員一人ひとりの環境保全意識を高め、「地球にやさしい」企業風土を醸成するために、社内外の環境教育と社内啓発活動を実施しています。

環境教育・啓発

- 新入社員の環境教育
- 環境マネジメントシステム教育
- 工場における一般教育・専門教育
- 社内報「躍動」に環境関連記事掲載
- 職場に「環境情報掲示板」を設置
- 社外の環境関連教育・セミナー など



新入社員の環境教育（環境安全推進室）



社内報「躍動」2004年1月号

環境情報の開示及び共有化

従業員の環境保全に対する意識・関心を高めるため、社内イントラネットを利用して環境に関する情報やデータを開示しています。社内イントラネットの利用は「情報の共有」と「紙の削減」に役立っています。



社内イントラネットの画面

情報開示

環境問題への取り組み姿勢や環境保全活動について、さまざまな機会を通じて社内外へ情報発信することは、企業が果たすべき責任であると考えています。社内での情報共有化を図る一方、環境報告書、ホームページなどを通じて積極的に情報を開示しています。

環境報告書の発行・配布

環境への取り組みをご理解いただくために、2000年から毎年環境報告書を発行しています。主な配布先はお客様、企業、行政機関、学校、学生、従業員などです。

環境報告書は、オフィス及び工場事務所のロビーにラックを設置し、来社されたお客様が自由に閲覧・お持ち帰りいただけるようにしています。また、環境報告書は弊社ホームページ上でも開示しています。



2001年版
(2001年7月発行)

2002年版
(2002年6月発行)

2003年版
(2003年6月発行)

商品展示会

毎年1回、商品展示会を開催しています。その際、お客様や従業員と家族に弊社の環境保全活動・社会活動に対する理解を深めていただくために、企業インフォメーションの中で環境・社会活動に関する取り組みを紹介しています。



ホームページ

弊社ホームページ上に「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」を開示し、幅広く環境保全活動について情報開示しています。環境報告書のほか、エコピックスによる最新の環境活動の紹介や、環境報告書の請求もできるようになっています。また、お客様とのコミュニケーションを円滑に行うために、環境専用のメールアドレスも設けています。



ホームページ：<http://www.itoham.co.jp>
専用メール：eco@itoham.co.jp

環境広告

2003年4月、日本経済新聞のシリーズ広告「伊藤ハムがお話したいこと」の一環として、「伊藤ハムの環境通信簿」を掲載しました。これは弊社の環境保全活動の取り組み実績を自己採点し、通信簿の形で皆様方にお伝えしたものです。



日本経済新聞の広告

環境活動Q&A

Q 環境活動に対する意見や感想はどのようにして伝えたいの？

A 環境活動に対する意見や感想は、本報に差し込むことや、インターネットを利用の上で送ってください。また、弊社ホームページ上の「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」内に環境専用のメールを設けていますので、そちらのフォームも利用していただけます。

TOPICS

パートナーシッププログラム

弊社の本社事務所が所在する兵庫県西宮市は、2003年12月に全国初の「環境学習都市宣言」を行いました。西宮市では行政と事業者のパートナーシップによる環境学習都市推進事業を促進するため、事業者に環境学習都市推進事業への参画と協力を呼びかけました。弊社では「伊藤ハムエコアッププログラム」として、甲子園浜クリーンアップ活動や調査協力を柱としたプログラムを申請し、認定を受けて活動を実施しました。



甲子園浜でのクリーンアップ活動と干潟観察会

1. 社会貢献活動基本方針

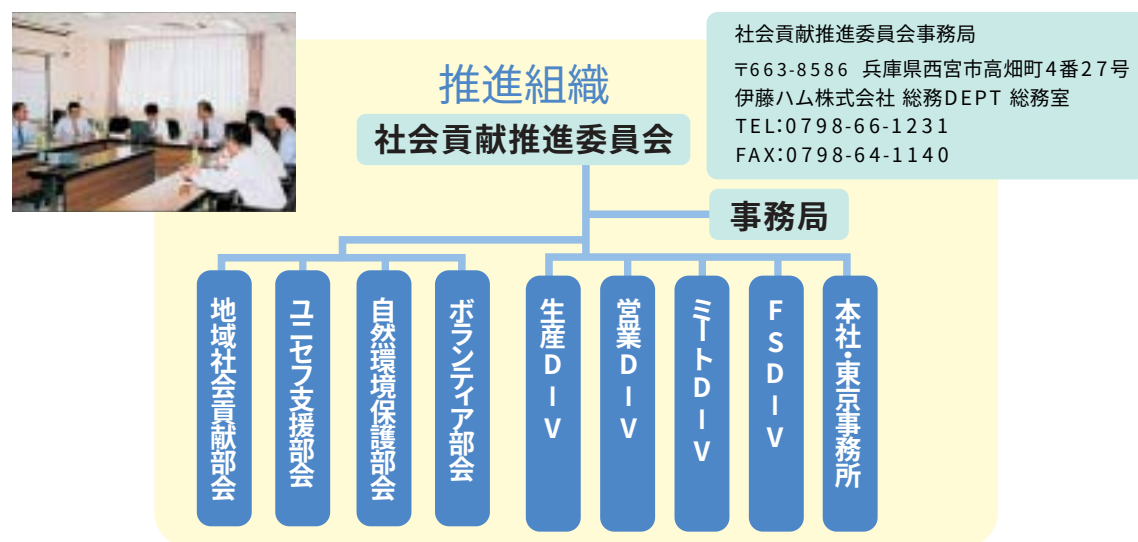
社は「事業を通じて社会に奉仕する」の精神のもと、さまざまな分野で社会の発展に寄与できる取り組みを進めるために、2003年4月に社会貢献推進委員会を設置し、体制を整備しました。よき企業市民として地球環境への配慮と地域社会との共生を目指して、さまざまな社会貢献活動を展開しています。

社会貢献活動理念

伊藤ハムグループの基本理念のもと、よき企業市民として、地球環境への配慮と社会との共生を大切にして、社会貢献活動を持続的に推進します。

活動方針

- 「食と健康」の分野で、世界の人々のお役に立つ活動を行います。
- 地域社会に、そのよき一員として貢献し、信頼関係を築きます。
- ユニセフ活動及び国内外の被災地救済活動を支援します。
- 森林や河川などの自然環境保護活動を支援します。
- 従業員の意思と責任に基づく、ボランティア活動を支援します。



社会貢献活動に関する情報を皆様にお伝えるために、弊社ホームページ上に「伊藤ハム社会貢献活動への取り組み」を設けています。社会貢献活動の理念、方針、活動組織をはじめ、自然環境保護活動、地域社会貢献活動、ユニセフ支援活動、被災地救済支援活動、ボランティア活動など、環境保全活動にかかわらず弊社が行う社会貢献活動全般について情報を開示しています。取り組んだ活動の結果については「社会貢献活動TOPICS」として都度情報を更新しますので、是非一度ご覧いただき、ご意見・ご感想をいただければ幸いです。（ホームページ：<http://www.itoham.co.jp>）

ホームページ画面



2. 社会とのかかわり

伊藤ハムグループの事業所が立地する地域社会に貢献することは、事業活動を行っていく上で当然の責務と考えています。伊藤ハムグループでは、地域・社会環境づくりに貢献するために、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

森林保護活動

●こうべ森の学校がスタート

2003年7月に「(仮称)こうべ市民演習林」としてスタートした「六甲山系再度山」(神戸市)の森林保護活動が、2003年11月「こうべ森の学校」と名称が正式に決定し、本格的な活動を始めました。この活動は、奇数月は第2土曜日、偶数月は第3日曜日に行われ、2003年7月～2004年3月のボランティア参加者は累計で約500名になりました。

「こうべ森の学校」は、2002年に緑化100周年を迎えた六甲山系で、これからの100年の森林保全と育成を目指して神戸市が進める「六甲山これからの百年の森づくり」を市民の手で行う活動です。

市民・行政・企業が協働で森林保全育成活動を推進するアダプトプログラムで、弊社は自然環境保護活動の一環として活動資金の提供や、従業員ボランティアを派遣しています。



発足式で矢田神戸市長より感謝状を受ける伊藤社長



熱心に聞き入る参加者

環境活動 Q&A

Q 「こうべ森の学校」に参加するにはどうしたらいいの？

A こうべ森の学校の活動は、六甲山系再度公園内(神戸市)の演習林で行っています。活動日にお越しいただき、簡単な参加手続きをするだけで参加できます。会員登録していただいた方には、定期的に活動の案内が郵送されます。



社会とのかかわり

クリーンアップ活動

●国際ビーチクリーンアップキャンペーン

ひとつにつながっている海のごみ問題解決のために、世界規模で行われる海岸清掃と廃棄物調査活動「国際ビーチクリーンアップキャンペーン」に賛同し、2001年より毎年春(4月)・秋(9月)の2回「クリーンアップinSUMA」(神戸市)のビーチクリーンアップ活動に協賛し、従業員が参加しています。



●甲子園浜ビーチクリーンアップ

2003年10月、阪神間では数少ない自然の砂浜と干潟が残り、国設鳥獣保護区である「甲子園浜」(西宮市)において、ビーチクリーンアップ活動を行いました。

今回の活動は、自然環境保護活動の一環として弊社の自主プログラムで行ったもので、クリーンアップ活動をメインプログラムに、環境学習会(干潟・水中生物観察会)も併せて行い、関西地区在住の従業員と家族など63名が参加しました。活動運営には、西宮市及びNPO法人「こども環境活動支援協会」(西宮市)のご協力をいただきました。



親子で仲良く
生物観察



西宮市職員による
甲子園浜の歴史説明

アメリカの
オーシャン・コンサーバンシー
(自然保護団体)からの感謝状



●ふなばし三番瀬クリーンアップ2003

2003年10月、「ふなばし三番瀬」(船橋市)のビーチクリーンアップ活動に参加しました。

三番瀬の清掃と自然観察会を市民・事業所・環境団体・行政とが協働して行い、三番瀬に対する関心と理解を深め、保全を図ることを目的に実施されたものです。

関東地区ではじめてのビーチクリーンアップ活動への参加でしたが、従業員とその家族71名が参加しました。



片手にごみ袋、心に熱い
ボランティア精神を持って

●事業所周辺の清掃活動

各工場では、工場周辺の道路などの清掃美化活動を定期的に実施しています。

また、本社をはじめ、全国の事業所でも周辺道路などの美化活動に積極的に参加しています。



ユニセフ支援活動

2003年11月1日～2004年1月31日の3ヵ月間、伊藤ハムグループの工場や営業所等約250ヵ所の拠点でユニセフ募金活動に取り組みました。ここで集まった募金は、従業員の募金総額と同額を会社が拠出する、いわゆるマッチングギフトにより、財団法人日本ユニセフ協会を通じ、世界中の開発途上国と呼ばれている国々の子どもたちに寄付しました。また、その募金活動には、NPO法人「トゥギャザー」の協力により、社会福祉法人「すずらん福祉園」に製作いただいた募金箱を一部使用しています。

ユニセフ(UNICEF:国連児童基金)

世界158の国と地域で、子どもたちの生存と健やかな発達を守るため、保健、栄養、水と衛生、教育などの支援事業をその国の政府やNGO、コミュニティと協力しながら実施しています。



グループ約250ヵ所の拠点に
募金箱を設置しました
(本社事務所)



街頭募金活動「ハンドインハンド」
に参加しました
(神戸市)

被災地救済支援活動

国内外で発生した自然災害で、災害に遭った人々の生活援助を図ることを目的とし、国・地方公共団体・その他の団体に対して、義援金の寄付や弊社製品を救援物資として贈る活動を行っています。

【2003年度の支援活動】

- 九州各地を襲った集中豪雨の被害地・水俣市(7月)
- 観測史上初めて1日3度の地震に見舞われた宮城県北部の震災地5町(7月)
- 北海道を通過した台風10号の大雨被害地3町(8月)
- M6.3の大地震で被災したイラン南東部(12月)

ボランティア活動

●社会貢献推進期間

毎年9月～10月の2ヵ月間、従業員の意識向上と積極的な社会参加を目的とした「社会貢献推進期間」を設けています。

2003年度の主な活動として、事業所周辺及び幹線道路の清掃活動や、森林ボランティア活動、ビーチクリーンアップ活動、使用済み切手、プリペイドカードの収集、ユニセフ募金活動などを行いました。



社内ポータルサイト

●ボランティア支援制度

環境保全活動、災害時の被災地救済活動や社会福祉活動などのボランティア活動に参加する場合、積み立て保存年休の範囲内で1年間に最高10日間の休暇を取得できるボランティア休暇制度を導入しています。

社外関連団体への参加

- クリーンアップ関西事務局
(<http://www.page.sannet.ne.jp/kfuru/>)
- グリーン購入ネットワーク
(<http://eco.goo.ne.jp/gpn/index.html>)
- こども環境活動支援協会
(<http://www2.ocn.ne.jp/~leaf-j/>)
- 瀬戸内海環境保全協会
(<http://www.seto.or.jp/setokyo/>)
- フィランソロピー・リンクアップ・フォーラム
(<http://cw1.zaq.ne.jp/osakavol/ccc/lnkpro.html>)
- プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
(<http://www.pprc.gr.jp/>)
- ユニセフ協会兵庫県支部
(日本ユニセフ協会 <http://www.unicef.or.jp/>)
- 各県、市の環境保全協議会
- 各地方の農林関連企業環境対策協議会

※その他の環境・社会貢献関連団体に参加しています。

環境活動 Q&A

Q クリーンアップ活動は、関西、関東地区だけでなく、行っているの？

A 関西、関東地区以外にも、伊藤ハムグループ工場周辺で開催されるオープン会場のクリーンアップ活動に参加していく計画です。また、自主企画でもクリーンアップ活動を積極的に行っていきます。



■ エネルギー等使用量の推移

		伊 藤 ハ ム			関 連 会 社			合 計		
		2001年度	2002年度	2003年度	2001年度	2002年度	2003年度	2001年度	2002年度	2003年度
電力	総量(千kwh)	131,160	137,065	138,204	23,310	24,925	25,650	154,470	161,990	163,853
	原単位(kwh/t)	1,113	1,056	1,085	1,382	1,298	1,324	1,146	1,087	1,116
燃料	総量(kl)	16,631	20,728	23,671	3,596	5,658	7,149	20,228	26,385	30,820
	原単位(l/t)	141	160	186	213	295	369	150	177	210
エネルギー	総量(kl)	52,027	54,155	54,569	9,773	10,290	10,276	61,801	64,445	64,845
	原単位(l/t)	441	417	428	579	536	531	459	432	442
用水	総量(千m³)	3,761	3,918	3,878	717	793	810	4,478	4,711	4,688
	原単位(m³/t)	32	30	30	42	41	42	33	32	32

＊1:原油換算 ＊2:総エネルギー:原油換算(購入電力+燃料+購入蒸汽)

■ 二酸化炭素(CO₂)の排出量の推移(t-CO₂)

		伊 藤 ハ ム			関 連 会 社			合 計		
		2001年度	2002年度	2003年度	2001年度	2002年度	2003年度	2001年度	2002年度	2003年度
電 力		45,048	42,443	38,794	8,322	6,240	4,213	53,369	48,683	43,006
燃 料	都市ガス	20,207	22,062	26,053	—	—	—	20,207	22,062	26,053
	LPガス	7,913	8,177	2,856	1,398	1,580	1,625	9,311	9,757	4,481
	重 油	5,640	13,754	22,062	8,177	13,620	17,653	13,817	27,374	39,715
	灯 油	9	6	6	33	30	34	42	35	40
	蒸気(購入分)	5,083	4,992	5,456	—	—	—	5,083	4,992	5,456
合 計		83,900	91,434	95,227	17,930	21,470	23,525	101,829	112,903	118,751
生産原単位 (kg-CO ₂ /t)		712	704	748	1,063	1,118	1,215	756	757	809

＊エネルギーの二酸化炭素(CO₂)排出係数は環境省の『温室効果ガス排出量算定方法に関する検討結果(平成12年9月)』を採用しました。

■ 代替フロン(HCFC-22)排出量の推移(単位:kg)

	2001年度	2002年度	2003年度
HCFC-22	8,809	10,062	9,200

■ 排出量とリサイクル率の推移(単位:t)

	伊 藤 ハ ム						関 連 会 社						合 計					
	2001年度		2002年度		2003年度		2001年度		2002年度		2003年度		2001年度		2002年度		2003年度	
	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率
汚 泥	10,482	96.5%	11,259	96.9%	11,158	99.9%	1,853	0.7%	2,219	63.1%	2,335	99.9%	12,335	82.1%	13,478	91.3%	13,493	99.9%
廃プラスチック	2,572	47.8%	2,934	51.3%	2,190	84.7%	510	9.2%	495	35.7%	512	59.4%	3,082	41.4%	3,429	49.1%	2,702	79.9%
動植物性残さ	2,823	41.1%	2,909	62.4%	2,297	89.4%	647	85.5%	790	8.0%	826	65.6%	3,407	49.4%	3,698	50.8%	3,122	83.1%
金属くず	404	95.5%	403	94.8%	378	99.7%	81	99.9%	91	99.8%	75	99.8%	485	96.2%	494	95.7%	452	99.7%
ガラス類	30	34.2%	32	27.2%	29	31.0%	0.3	6.1%	1	70.2%	0.2	57.6%	31	33.9%	32	27.8%	29	31.2%
古紙類(OA用紙等)	216	58.4%	232	62.1%	599	99.5%	41	23.5%	44	52.0%	46	86.3%	257	52.9%	276	60.5%	645	98.6%
廃ダンボール類	3,308	100.0%	3,755	100.0%	3,453	97.4%	419	100.0%	495	100.0%	619	100.0%	3,726	100.0%	4,250	100.0%	4,074	97.7%
廃 油	462	99.9%	547	100.0%	551	99.8%	552	100.0%	575	100.0%	689	100.0%	1,014	99.9%	1,122	100.0%	1,240	99.9%
チップくず	132	29.4%	231	57.8%	237	74.6%	34	0.0%	30	17.6%	34	0.0%	165	23.4%	262	53.1%	271	65.2%
その他(一般ゴミ)	—	—	733	0.0%	1,532	1.3%	—	—	14	0.0%	167	17.0%	—	—	747	0.0%	1,699	2.8%
合 計	20,428	82.4%	23,035	86.1%	22,424	89.9%	4,137	40.5%	4,754	59.5%	5,303	87.3%	24,564	75.3%	27,787	79.3%	27,727	89.4%

■ 伊藤ハムグループのISO14001認証取得事業所

サ イ ト 名		認 証 機 関	登 録 年 月
伊藤ハム	西宮工場	日本環境認証機構(JACO)	2000年 2月
	東京工場	日本環境認証機構(JACO)	2000年 9月
	豊橋工場	日本環境認証機構(JACO)	2000年11月
	六甲工場	日本環境認証機構(JACO)	2001年10月
	九州工場	日本環境認証機構(JACO)	2002年 2月
	北神加工センター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)	2003年 3月
伊藤ハムグループ	船橋工場	日本環境認証機構(JACO)	2003年 5月
	伊藤ハムデイリー 東北工場	日本環境認証機構(JACO)	2004年 5月
	サンギョーミート 有明ミート工場	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)	2002年 3月
	藤栄ファーム事業部		
	霧島ミート工場		
	デイリー物流 本社・仙台物流センター	財団法人日本品質保証機構(JQA)	2004年 3月
伊藤ハムグループ	ロックデールビーフ社(オーストラリア)	NCS International Pty Ltd	2000年 3月
	ファイブスタービーフ社(ニュージーランド)	SGS International Certification Services Pty Ltd	2001年 1月

＊北神加工センターは、事業所閉鎖にともない2004年3月に認証登録を返納しました。

■ グリーン購入

対 象 品 目		グリーン購入の割合(%)		
		2002年度	2003年度	増 減
文具類	筆記具、ファイル等	65.7	57.0	▲8.7P
紙類	コピー用紙、コンピューター用紙、包装紙等	82.7	80.1	▲2.6P
OA機器類	パソコン、コピー機、ファクシミリ等	95.2	100.0	4.8P
照明器具類	ランプ、蛍光灯器具等	50.7	56.0	5.3P
オフィス家具類	事務用机、椅子、OAテーブル等	97.8	100.0	2.2P
制服類	作業着等	4.0	63.9	59.9P

サイトデータ

九州工場

1.エネルギー使用量と二酸化炭素(CO₂)排出量(生産原単位)

	2002年度	2003年度	増減(%)
電力(kwh/t)	1,148	1,200	4.5
燃料(l/t)	305	392	28.5
総エネルギー(l/t)	502	509	1.4
用水(m³/t)	44	41	▲6.8
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,021	1,075	5.3

2.廃棄物の排出量とリサイクル率

	2002年度	2003年度	増減(%)
排出量(t)	3,936	3,609	▲8.3
リサイクル率(%)	91.4	93.4	2P

3.排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～8.5	8.4	7.8	—
BOD(mg/L)	30	25	13.0	—	2.8
SS(mg/L)	25	20	21.0	—	5.3

4.大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm³/h)	A(2基)	2.69	—	—	—
	B(6基)	2.0	0.1	—	—
NOx(ppm)	A(2基)	150	130	73	70
	B(6基)	950	750	69	66
ばいじん(g/Nm³)	A(2基)	0.1	0.01	0.001	0.001
	B(6基)	0.4	0.05	0.001	0.001

六甲工場

1.エネルギー使用量と二酸化炭素(CO₂)排出量(生産原単位)

	2002年度	2003年度	増減(%)
電力(kwh/t)	1,634	1,597	▲2.3
燃料(l/t)	144	145	0.7
総エネルギー(l/t)	577	598	▲1.6
用水(m³/t)	26	26	▲2.3
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	844	832	▲1.4

2.廃棄物の排出量とリサイクル率

	2002年度	2003年度	増減(%)
排出量(t)	853	693	▲18.7
リサイクル率(%)	61.4	85.1	23.7P

3.排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	7.4	6.7	—
BOD(mg/L)	200	180	26.0	—	7.6
SS(mg/L)	100	90	14.0	—	4.8

4.大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(K値)	A(4基)	1.17	—	—	—
NOx(ppm)	A(4基)	150	40	20	19
ばいじん(g/Nm³)	A(4基)	0.1	0.02	0.002	0.001

所在地

〒841-0202
佐賀県三養基郡基山町
長野970-1



環境管理責任者

九州工場はISO14001認証取得から3年目を迎えました。年を追うごとに従業員の意識も向上し成果を上げています。今年はISOの更新審査を受けることとなりますが、全従業員が一丸となって目標を達成させるべく活動に取り組んでいます。今後は、さらに活動の質を上げ、一人ひとりが自分のやるべきこと、出来ることを地道にそして着実に進め、結果として大きな成果につながるような環境活動を展開して行きます。



九州工場
惣菜グループ・
グループマネージャー
千々岩 龍郎

主な生產品目



アルトバイエルン



チキンナゲット



備長炭ハンバーグ

所在地

〒658-0033
兵庫県神戸市東灘区
向洋町西5-7



環境管理責任者

六甲工場の生産活動で生じる環境負荷は決して小さいものではありません。私たち一人ひとりが業務を見直し、不断の努力で環境負荷の低減を継続させる必要があり、積極的な行動と改善が求められています。さらなる環境負荷の低減を図るためには「見える管理」を推進するとともに、プロセスの重視と源流管理に努め、身近なところからできることを着実にやっていく。このことで、我々が将来世代に恵み豊かな環境を引き継いでいけると確信いたします。



六甲工場
生産管理室・室長
松本 逸次

主な生產品目



バルキー



ローストビーフ



ムースボール

西宮工場

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO ₂ ）排出量（生産原単位）			
	2002年度	2003年度	増減（%）
電力(kwh/t)	1,156	1,078	▲6.7
燃料(l/t)	192	187	▲2.6
総エネルギー(l/t)	432	414	▲4.2
用水(m ³ /t)	28	27	▲3.6
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	670	643	▲4.0

2.廃棄物の排出量とリサイクル率			
	2002年度	2003年度	増減（%）
排出量（t）	5,200	5,257	1.1
リサイクル率（%）	75.0	83.3	8.3P

3.排水の水質関係目標達成状況					
	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.5～8.5	7.6	7.1	—
BOD(mg/L)	30（20）	15	5.2	—	2.0
SS(mg/L)	30（20）	20	13.0	—	4.6

4.大気関係の目標達成状況					
	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（t/y）	A&B（14基）	1.3	—	—	—
NOx（ppm）	A（12基）	60	45	37	35
	B（2基）	150	120	49	47
ばいじん（g/Nm ³ ）	A（12基）	0.05	0.02	0.003	0.003
	B（2基）	0.05	0.02	0.002	0.002

豊橋工場

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO ₂ ）排出量（生産原単位）			
	2002年度	2003年度	増減（%）
電力(kwh/t)	1,356	1,340	▲1.8
燃料(l/t)	238	341	43.3
総エネルギー(l/t)	500	481	▲3.8
用水(m ³ /t)	45	47	4.2
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,002	1,120	11.8

2.廃棄物の排出量とリサイクル率			
	2002年度	2003年度	増減（%）
排出量（t）	2,883	3,056	6.0
リサイクル率（%）	80.2	92.4	12.2P

3.排水の水質関係目標達成状況					
	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.5～8.5	7.9	7.4	—
BOD(mg/L)	120（100）	40	8.3	—	5.7
SS(mg/L)	160（120）	40	15.0	—	6.8

4.大気関係の目標達成状況					
	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（Nm ³ /h）	A（7基）	2.2	1	0.05	0.05
	B（7基）	1.01	—	0.03	0.03
NOx（ppm）	A（7基）	—	180	100	91
	B（7基）	400	—	80	69
ばいじん（g/Nm ³ ）	A（7基）	—	0.1	0.003	0.002
	B（7基）	0.1	—	0.003	0.002

所在地

〒663-8586
 兵庫県西宮市高畑町4-27



環境管理責任者

私が伊藤ハムに入社したのが昭和46年4月。当時は周りにはほとんど民家がありませんでした。あれから33年、工場の周りには高層の住宅や戸建ての住宅が建ち並び、様変わりしました。このような環境の中で、今後継続してこの場所で生産を続けていくためには地域の皆さんと共生を図って行かなければならないと考えています。毎日の生産活動では騒音、異臭、廃水の放流などに気を付け、地域の皆さんにご迷惑をかけないよう努めています。2000年に認証取得したISO14001での活動を進め、地球にやさしく環境に配慮する工場”を合言葉に環境活動を進めていきたいと考えています。



西宮工場
 生産統括室・室長
 佐伯 邦夫

主な生産品目



アルトバイエルン



ロイヤルポールウイナー



さわやかパック
 ホワイトロース

東京工場

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO ₂ ）排出量（生産原単位）			
	2002年度	2003年度	増減（%）
電力(kwh/t)	946	959	1.4
燃料(l/t)	131	137	4.6
総エネルギー(l/t)	381	391	2.6
用水(m ³ /t)	34	33	▲3.6
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	574	590	2.8

2.廃棄物の排出量とリサイクル率			
	2002年度	2003年度	増減（%）
排出量（t）	6,250	6,218	▲0.5
リサイクル率（%）	99.98	99.98	0P

3.排水の水質関係目標達成状況					
	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	8.2	7.4	—
BOD(mg/L)	10	8	4.4	—	2.4
SS(mg/L)	20	16	15.0	—	5.2

4.大気関係の目標達成状況					
	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（Nm ³ /h）	A（2基）	0.025	—	—	—
	B（12基）	0.272	—	—	—
NOx（ppm）	A（2基）	150	120	95	60
	B（12基）	150	120	84	42
ばいじん（g/Nm ³ ）	A（2基）	0.1	0.08	0.004	0.002
	B（12基）	0.1	0.08	0.01	0.003

船橋工場

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO ₂ ）排出量（生産原単位）			
	2002年度	2003年度	増減（%）
電力(kwh/t)	1,461	1,538	5.3
燃料(l/t)	72	77	6.9
総エネルギー(l/t)	630	676	7.3
用水(m ³ /t)	33	34	4.0
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,133	1,225	8.1

2.廃棄物の排出量とリサイクル率			
	2002年度	2003年度	増減（%）
排出量（t）	2,150	2,555	18.8
リサイクル率（%）	52.4	75.2	22.8P

3.排水の水質関係目標達成状況					
	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	7.3	6.8	—
BOD(mg/L)	350	250	247.0	—	159.3
SS(mg/L)	80	70	70.0	—	35.2

所在地

〒277-8586
 千葉県柏市根戸1-3



環境管理責任者

物をつくる工場では、多くの電気・ガス・水を使います。そこで、製品1トンをつくるのにどれだけ電気・ガス・水を使ったのかが一目でわかるように、毎月の目標と実績を表とグラフで職場に掲示して進捗を管理し、使用量の削減に努めています。また廃棄物は、職場ごとに全量計量し、コンピュータで管理し、可能な限りリサイクル化を進めた結果、東京工場ではリサイクル率が99.98%となりました。これからも関連法令を遵守し、廃棄物の削減に向けた活動がしやすい体制づくりを積極的に進めていきます。



東京工場
 生産統括室・室長
 佐藤 俊雄

主な生産品目



アルトバイエルン



ポークビッツ



チーズイン

所在地

〒441-8686
 愛知県豊橋市藤並町藤並73



環境管理責任者

豊橋工場では、ISO14001の認証取得工場として、「省資源・省エネルギー化の推進」「循環型社会への貢献」「地域社会との共生」を最優先課題に位置付け、さまざまな環境負荷低減についての取り組みを進めております。特に廃棄物に関しては、「リサイクル化推進3ヵ年計画」を打ち立て、2006年を目標年度としたゼロエミッション工場の確立を目指しております。その一環として、エコステーションを新設し、ゴミの細分別化とリサイクルによる有効活用を進めてきました。また、現在は、有機汚泥の排出削減を目的とした、最新処理技術の導入による排水処理施設の増強改修に着手しており、今後もさらなる環境負荷低減を進めてまいります。



豊橋工場
 運営統括室
 伊藤 昌弘

主な生産品目



ポークビッツ



朝のフレッシュベーコン



生ハムロース

所在地

〒273-0014
 千葉県船橋市高瀬町24-28



環境管理責任者

船橋工場は「東京湾の三番瀬」「ラムサール条約登録湿地の谷津干潟」など、環境保全のシンボルとなっている地域に隣接しています。こうした中で「環境に優しい生産活動」を合い言葉に、全従業員が一丸となり環境保全活動に取り組んでいます。環境保全活動以外にも「工場の効率化活動」、「社会貢献活動」も同時に取り組んでいるので、今後はこれら活動をうまく取り込み、かつ相互に関連づけることでより高度な環境保全活動を推進したいと考えています。



船橋工場
 惣菜グループ・グループマネージャー
 工藤 義廣

主な生産品目



巨匠の彩



元祖あぶり焼きチキン

伊藤ハムデリー株式会社（東北工場）

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO ₂ ）排出量（生産原単位）			
	2002年度	2003年度	増減（％）
電力(kwh/t)	1,430	1,467	2.6
燃料(l/t)	351	452	28.8
総エネルギー(l/t)	591	583	▲1.4
用水(m ³ /t)	45	42	▲6.4
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,267	1,397	10.3

2.廃棄物の排出量とリサイクル率			
	2002年度	2003年度	増減（％）
排出量（t）	4,316	4,851	12.4
リサイクル率（％）	58.7	87.8	29.1P

3.排水の水質関係目標達成状況					
	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	8.2	7.1	—
BOD(mg/L)	160(120)	120(100)	6.4	—	3.3
SS(mg/L)	200(150)	100(50)	18.3	—	8.1

4.大気関係の目標達成状況					
	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	A(5基)	0.98	0.5	0.1	0.05
	B(1基)	0.86	0.5	0.1	0.1
	C(6基)	3.16	2.53	0.1	0.05
NOx(ppm)	A(5基)	180	150	120	82
	B(1基)	250	150	98	84
	C(6基)	950	760	657	636
ばいじん(g/Nm ³)	A(5基)	0.3	0.1	0.03	0.012
	B(1基)	0.3	0.1	0.13	0.07
	C(6基)	0.1	0.08	0.03	0.02

所在地

〒987-2195
宮城県栗原郡高清水町
来光沢20



環境管理責任者

東北工場では「地球に優しく環境に配慮する工場」をスローガンに環境負荷の低減に努めるとともに地域社会との共生を進め環境保全の取り組みを行っています。環境保全活動を円滑に推進するため、2004年度より環境管理室を新たに設置しました。また、2004年5月にはISO14001を認証取得しました。今後は、従業員の意識高揚を図り全社一丸となって環境保全活動を推進するように環境保全活動に取り組んでまいります。



伊藤ハムデリー株式会社
東北工場
運営統括室・室長
佐藤 高夫

主な生産品目



アルトバイエルン



チキンナゲット



やわらか煮込み亭
豚角煮

伊藤ハムデリー株式会社（小樽工場）

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO ₂ ）排出量（生産原単位）			
	2002年度	2003年度	増減（％）
電力(kwh/t)	697	684	▲1.9
燃料(l/t)	106	108	1.9
総エネルギー(l/t)	291	289	▲0.7
用水(m ³ /t)	20	18	▲13.3
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	537	537	0.0

2.廃棄物の排出量とリサイクル率			
	2002年度	2003年度	増減（％）
排出量（t）	220	221	▲0.5
リサイクル率（％）	99.0	99.98	1.0P

3.排水の水質関係目標達成状況					
	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.7～8.7	6.5～8.5	8.5	7.5	—
BOD(mg/L)	300	300	280.0	—	58.8
SS(mg/L)	300	200	110.0	—	27.5

4.大気関係の目標達成状況					
	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	A(2基)	0.58	0.3	0.2	0.2
NOx(ppm)	A(2基)	—	100	57	49
ばいじん(g/Nm ³)	A(2基)	0.4	0.1	0.02	0.02

所在地

〒061-3271
北海道小樽市銭函5-61-3



環境管理責任者

小樽工場は廃棄物のリサイクル率がほぼ100%です。これは、工場で発生する廃棄物をすべての従業員が決められた方法に従って分別排出し、処理業者の方の協力を得て達成できました。今後は、従業員の一層の努力により工場で発生する廃棄物を削減していきたいと考えています。また、日本海に面している土地柄を考えると、クリーンエネルギーである風力発電にも取り組みたら、より良いエコプラントに進化していくと、夢は大きく、さらなる、地球にやさしい工場を目指して日々挑戦していきます。



伊藤ハムデリー株式会社
小樽工場
製造グループ・
グループマネージャー
山村 祐一

主な生産品目



アルトバイエルン



あらびきグルメ
ウインナー



朝のフレッシュローズ

伊藤ハム食品株式会社（小矢部工場）

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO ₂ ）排出量（生産原単位）			
	2002年度	2003年度	増減（％）
電力(kwh/t)	1,149	1,077	▲6.3
燃料(l/t)	163	168	3.1
総エネルギー(l/t)	468	477	1.9
用水(m ³ /t)	41	40	▲2.2
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	853	873	2.3

2.廃棄物の排出量とリサイクル率			
	2002年度	2003年度	増減（％）
排出量（t）	218	230	5.5
リサイクル率（％）	36.2	65.7	29.5P

3.排水の水質関係目標達成状況					
	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	6.0～8.0	6.0～8.0	7.5	6.9	—
BOD(mg/L)	50(30)	10(8)	3.6	—	1.2
SS(mg/L)	60(40)	30(10)	7.0	—	3.5

4.大気関係の目標達成状況					
	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	A(2基)	2.1	0.1	0.08	0.05
	B(1基)	2.1	0.1	0.06	0.05
NOx(ppm)	A(2基)	—	150	122	94
	B(1基)	—	150	109	95
ばいじん(g/Nm ³)	A(2基)	0.2	0.1	0.02	0.02
	B(1基)	0.2	0.1	0.02	0.02

所在地

〒932-0131
富山県小矢部市名畑5068



環境管理責任者

小矢部工場では、周辺環境を第一に考えて廃水処理設備を地下式として美観や騒音面で配慮してまいりました。2003年度には、廃棄物の保管時に発生する臭気に配慮し、冷蔵保管用のエコステーションを新設致しました。また、周辺が広大な水田であることから地域住民の方の水に対しての関心も高く、工場からの排水については特に気を配っています。今後についても、事業活動を継続していく中で周辺の豊かな自然環境に悪影響を与えない工夫や努力を惜しまず、環境保全活動をさらに推進してまいります。



伊藤ハム食品株式会社
小矢部工場
E S室・室長
川崎 敏文

主な生産品目



ビストロ・レシピ



テリヤキ



あらびきグルメ



ウインナー

サンヨーミート株式会社（有明ミート工場）

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO ₂ ）排出量（生産原単位）			
	2002年度	2003年度	増減（％）
電力(kwh/t)	257	271	14.2
燃料(l/t)	22	78	56.2
総エネルギー(l/t)	65	98	32.9
用水(m ³ /t)	15	14	▲1.0
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	118	241	122.8

2.排水の水質関係目標達成状況					
	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～8.0	7.7	7.3	—
BOD(mg/L)	30	20	7.0	—	2.6
SS(mg/L)	40	20	13.0	—	5.9

3.大気関係の目標達成状況					
	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	A(5基)	1.8	1	0.35	0.24
	B	—	—	—	—
NOx(ppm)	A(5基)	—	—	56	43
	B	—	—	—	—
ばいじん(g/Nm ³)	A(5基)	0.3	0.2	0.024	0.01
	B	—	—	—	—

所在地

〒899-7402
鹿児島県曽於郡有明町
野井倉6965



環境管理責任者

有明ミート工場では、地球環境への負荷を低減するために、環境方針及び目的に沿い、電力の使用量削減、廃棄物の発生量削減、PPC用紙の使用量の削減やグリーン購入の促進を主要な取り組みとして環境保全活動を行なっています。当工場が位置する鹿児島県有明町は自然が多く、その自然を大切にす方針が町より出されており、地域住民の方に迷惑がかからないように、地域と密着した環境活動を進めてまいりたいと考えております。



サンヨーミート株式会社
総務DEPT・マネージャー
鳩宿 勇

主な生産品目



牛・豚カット肉

サンキョーミート（霧島ミート工場）

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO ₂ ）排出量（生産原単位）			
	2002年度	2003年度	増減（％）
電力(kwh/t)	208	198	▲4.8
燃料(l/t)	11	12	3.5
総エネルギー(l/t)	67	64	▲3.1
用水(m ³ /t)	3	3	9.3
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	104	102	▲2.0

2.排水の水質関係目標達成状況					
	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	7.5	7	—
BOD(mg/L)	160	100	75	—	46
SS(mg/L)	200(150)	50	36	—	22

主な生産品目



豚カット肉

所在地

〒886-0004
宮崎県小林市細野2516



環境管理責任者

霧島ミート工場では、地球環境への負荷を低減するために、環境方針及び目的に沿い、電力の使用量削減、廃棄物の発生量削減、PPC用紙の使用量の削減やグリーン購入の促進を主要な取り組みとして環境保全活動を行なっています。また、当工場が位置する宮崎県小林市では、ゴミの細分別及びリサイクルへの取り組みなど、行政と地域住民ぐるみの活動の輪が広がっており、行政や地域とのコミュニケーションを図りながら一体となり、周辺地域のすばらしい自然環境を守るための活動を進めたいと思います。



サンキョーミート株式会社
霧島ミート工場
取締役工場長
堀内 和義

北神加工センター（データ集計期間：2003年4月1日～2004年2月28日）

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO ₂ ）排出量（生産原単位）			
	2002年度	2003年度	増減（％）
電力(kwh/t)	456	516	13.2
燃料(l/t)	68	61	▲10.3
総エネルギー(l/t)	189	198	4.8
用水(m ³ /t)	9	9	▲4.3
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	286	295	3.1

2.廃棄物の排出量とリサイクル率			
	2002年度	2003年度	増減（％）
排出量（t）	1,761	1,037	▲41.1
リサイクル率（％）	84.8	82.6	▲2.2P

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.7～8.7	5.7～8.7	7.7	6.9	—
BOD(mg/L)	300	200	93.0	—	47.1
SS(mg/L)	300	200	106.0	—	66.2

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（K値）	A（3基）	1.17	—	—	—
NOx（ppm）	A（3基）	—	60	34	27
ばいじん（g/Nm ³ ）	A（3基）	—	0.05	0.003	0.003

あとがき

社内のさまざまな部門の方の協力を得て、今年も6月に環境報告書を発行することができました。

今年の環境報告書では、「社会性報告」の項目を設けて、社会活動に関する記載を充実させました。なるべく多くの皆様から忌憚のないご意見・ご感想をいただきましたら幸いです。

昨今「企業の社会的責任（CSR）」の重要性がクローズアップされ、新聞紙上でも毎日のように「CSR」の言葉を目にします。「CSR」という言葉を目にするたびに、わたしたちが果たすべきことは何なのか、きっちりと果たしているのかを考えさせられます。

地球環境の保護と地域社会との共生を考えて環境保全活動を継続して行うこと、安全・安心な商品をお届けすること、よき企業市民として社会的な責任に応えることなど、その範囲は広がり、重要性は増しています。まだまだ取り組むべき課題は多いので

すが、皆様からの信頼にお応えしていくために、企業人として、また一市民として「信用」「信頼」「安全」「安心」を胸に置いて行動してまいります。

環境安全推進室



環境保全活動の沿革

年 月	当社の主な取り組み内容	日本の主な動き
1965 年	・廃水处理設備の導入開始	
1971 年		・環境庁設置
1973 年	・都市ガス燃料ボイラーの導入開始	
1990 年		・地球温暖化防止行動計画策定
1991年 3 月	・生産各工場に「環境管理室」を設置	・経団連「地球環境憲章」制定 ・リサイクル法公布
1992 年		・廃棄物処理及び清掃に関する法律改正
1993 年 3 月	・生産事業本部に「環境安全担当」を設置	・環境基本法制定
1994 年10 月	・大型ボイラーから小型ボイラーに更新し環境負荷を低減	
1995 年		・容器包装リサイクル法公布
1996 年		・ISO14001国際環境管理規格発効
1997 年		・地球温暖化防止京都会議(COP3)開催
1998 年 2 月 3 月	・営業車輛に天然ガス（CNG）自動車の導入開始（業界初） ・「環境担当役員」を選任、「環境安全推進室」を設置 ・全社的な活動推進組織を設置 「環境委員会」―「生産部会」「商品物流部会」「オフィス部会」及び、生産部会の下部組織として「工場環境会議」を設置	・「地球温暖化対策推進大綱」制定 ・家電リサイクル法公布 ・エネルギーの使用合理化に関する法律（省エネ法）改正
1999 年 2 月 10 月	・「環境基本方針」を制定 ・東京工場が廃棄物計量システムを導入	・PRTR法公布 ・ダイオキシン類対策特別措置法公布
2000 年 2 月 3 月 4 月 8 月 9 月 10 月 11 月	・西宮工場がSO14001を認証取得 ・オーストラリアのロックデールビーフ社がSO14001を認証取得 ・環境監査実施基準を策定し、全社的に環境監査を開始 ・西宮工場が廃棄物計量システムを導入 ・環境報告書を初めて発行 ・ホームページの「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」を開設 ・東京工場がSO14001を認証取得 ・豊橋工場が廃棄物計量システムを導入 ・豊橋工場がSO14001を認証取得	・循環型社会形成推進基本法公布 ・容器包装リサイクル法完全施行 ・建設リサイクル法公布 ・食品リサイクル法公布 ・グリーン購入法公布 ・改正リサイクル法公布 ・環境省「環境会計ガイドライン(2000年度版)」公表
2001 年 1 月 3 月 4 月 7 月 10 月	・ニュージーランドのファイブスタービーフ社がSO14001を認証取得 ・中期経営計画において環境活動3ヵ年計画を策定 ・グリーン購入基本方針制定 ・九州工場が廃棄物計量システムを導入 ・生産工場を対象に環境会計を導入 ・西宮工場で都市ガスによるコージェネシステムが稼動 ・六甲工場がSO14001を認証取得	・PCB廃棄物特別措置法公布 ・フロン回収破壊法公布 ・環境省「環境報告書ガイドライン(2000年度版)」公表
2002 年 2 月 3 月 8 月 9 月 10 月 11 月	・九州工場がSO14001を認証取得 ・サンキョーミート(株)有明ミート工場・藤栄ファーム事業部・霧島ミート工場がSO14001を認証取得 ・環境基本方針の「環境行動指針」を一部改定 ・環境推進組織「生産部会」の下に「省エネ対策専門会議」を設置 ・九州工場、伊藤ハムデイリー東北工場でコージェネシステムが稼動 ・コンプライアンスハンドブックを従業員に配布 ・豊橋工場でコージェネシステムが稼動 ・日本食糧新聞社の「環境資源協力賞」を受賞 ・社会貢献活動理念と活動方針を策定	・「地球温暖化対策推進大綱」（見直し） ・自動車リサイクル法公布 ・土壤汚染対策法公布 ・環境省「環境会計ガイドライン(2002年度版)」公表
2003 年 3 月 5 月 7 月 9 月 10 月 11 月	・北神加工センターがISO14001認証取得 ・船橋工場がISO14001認証取得（伊藤ハムのすべての生産工場 で認証取得を完了） ・（仮称）「こうべ市民演習林」（こうべ森の学校の前身）活動開始 ・「社会貢献推進期間」を設定し、全国の事業所で社会貢献活動の 取り組みを開始 ・「クリーンアップin甲子園浜」（初めての自主企画）を実施 ・こうべ市民演習林の名称が「こうべ森の学校」と決定し発足式を 実施。本格的な森林保全活動がスタート	・自然再生推進法施行 ・アジア太平洋環境会議（エコアジア2003）開催 ・土壤汚染対策法公布 ・オゾン層破壊物質に関するモントリオール議定書 第15回締約国会議開催 ・気候変動枠組条約第9回締約国会議（COP9）開催
2004 年 3 月	・デイリー物流株式会社がISO14001認証取得 ・北神加工センターが事業所閉鎖にともない ISO14001認証を返納	・環境省「環境報告書ガイドライン（2003年度版）」公表

伊藤ハムの環境活動

工場見学



あっ、コイが泳いでる！

工場で使った水は廃水処理設備できれいに
して、川に流しているんだよ。きれいにし
た水は、庭木や芝の散水に再利用したり池
に放流したりも
しているんだよ。



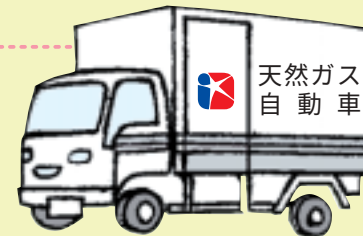
廃棄物の量がわかるんですか？

廃棄量を少なくしていくために、コンピ
ュータによる計量器で測定し、記録して
いるんだよ。



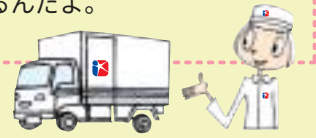
天然ガス自動車を使って いるようですが、普通の自動車と どうちがうのですか？

天然ガス自動車は、地球温暖化の原因となる
CO₂（二酸化炭素）の排出量を、ガソリン車よ
り2〜3割少なくできるんだ。光化学スモッグ・
酸性雨などの環境汚染を招くNO_x（窒素酸化
物）、CO（一酸化炭素）、HC（炭化水素）の
排出量も少なく、SO_x（硫黄酸化物）はまっ
たく排出されないんだよ。つまり、排出ガスが
普通の自動車よりもクリーンなんだ。



停車中のトラックは みんな、エンジンを止めているんですね。

アイドリングストップといって、大気汚染されないように停
車中はエンジンを止めることにしているんだよ。

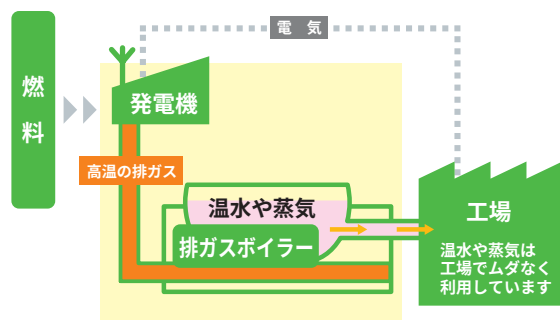


工場のまわりは、とてもきれいですね。

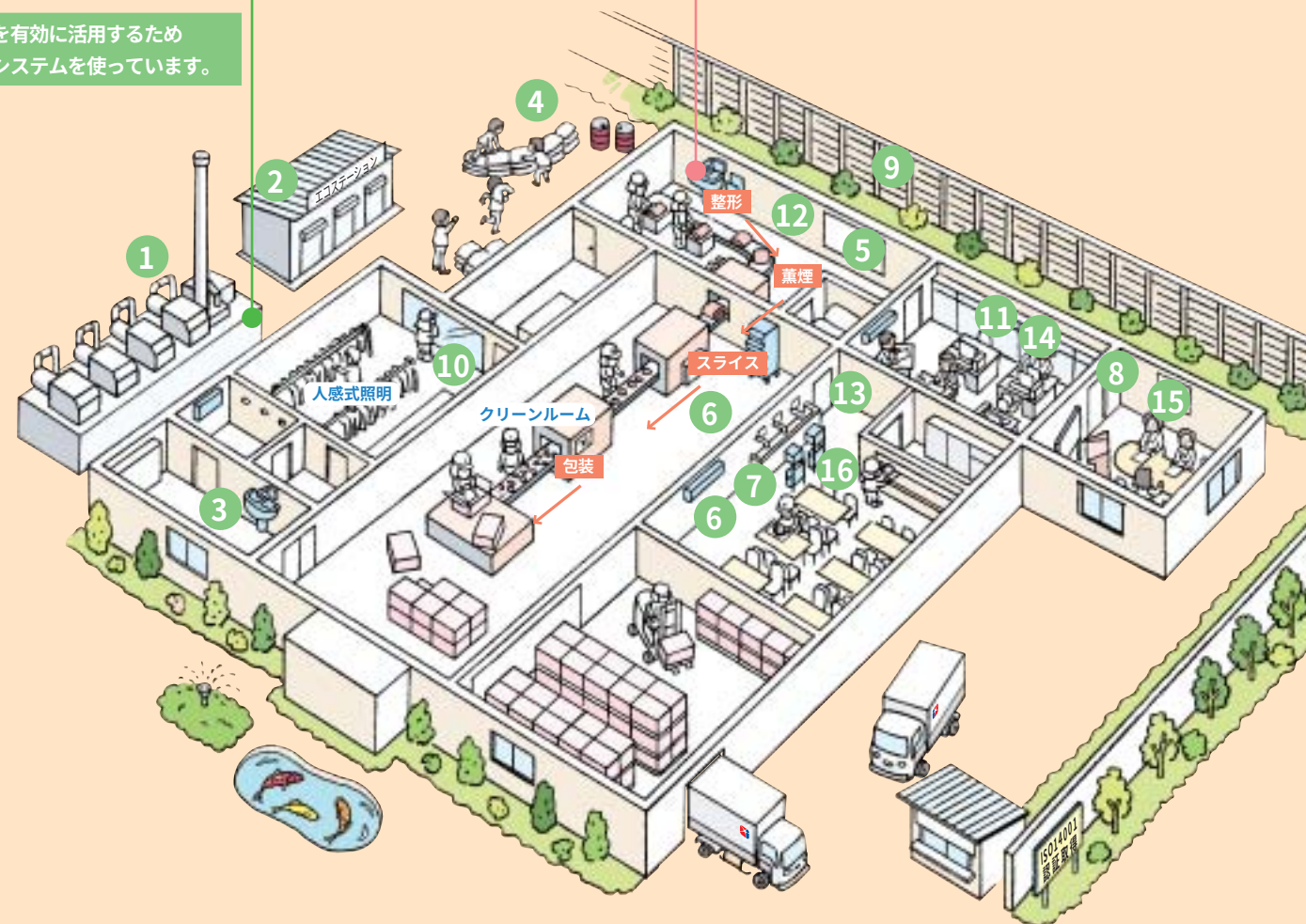
従業員みんなが
交代で、周辺を
掃除しているんだ。



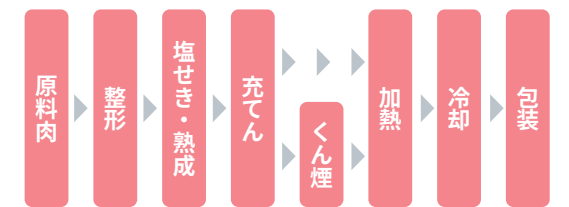
コージェネシステム



1 エネルギーを有効に活用するため
コージェネシステムを使っています。



ハム・ソーセージの製造工程



9 工場の音で近所みなさんに迷惑をかけないために、
防音壁や防音シートをそなえています。

10 作業着はペットボトルの
再生樹脂を使ったものです。

11 エアコンや複写機、パソコン、事務用品などは、
環境への影響が小さい商品を採用しています。（グリーン購入）

12 原料肉をムダ使いせず、食品ゴミをへらすために、
落下防止カバーを設置しています。

13 紙の使用量をへらすためペーパータオルから
ジェットタオルに替えました。

14 コピーするときは裏紙を使うなど、用紙の使用量を
少なくしています。

15 定期的に環境教育を
おこなっています。

16 食べ残しを少なくするため、
従業員食堂のご飯の器を大中小の3種類にしています。

「2003年環境報告書」アンケート結果について



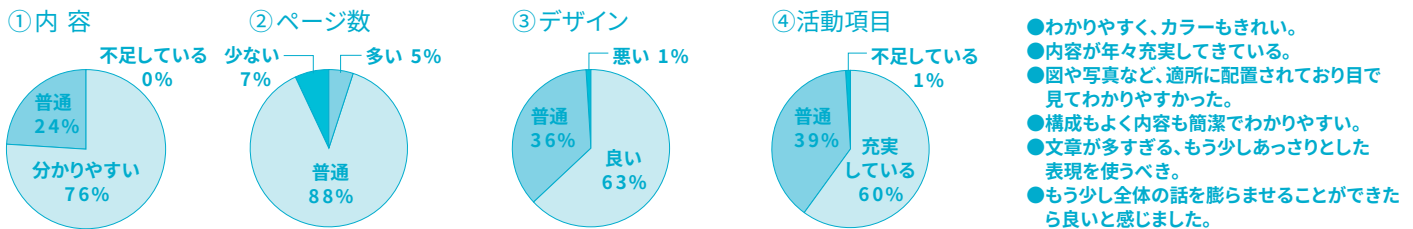
伊藤ハム「2003年環境報告書」（2003年6月発行）アンケートに多数お答えいただきました。皆様からいただきました貴重なご意見・ご感想は、環境保全活動や環境報告書の制作に役立たせていただきました。ありがとうございました。裏面が、「2004年環境報告書」アンケート用紙となっています。環境報告書を読まれてのご感想やお気づきの点などございましたら、ご記入の上送付いただければ幸いです。いただきましたご意見・ご感想を参考にさせていただき、環境保全活動の取り組みや環境報告書の制作を進めてまいります。

2004年6月

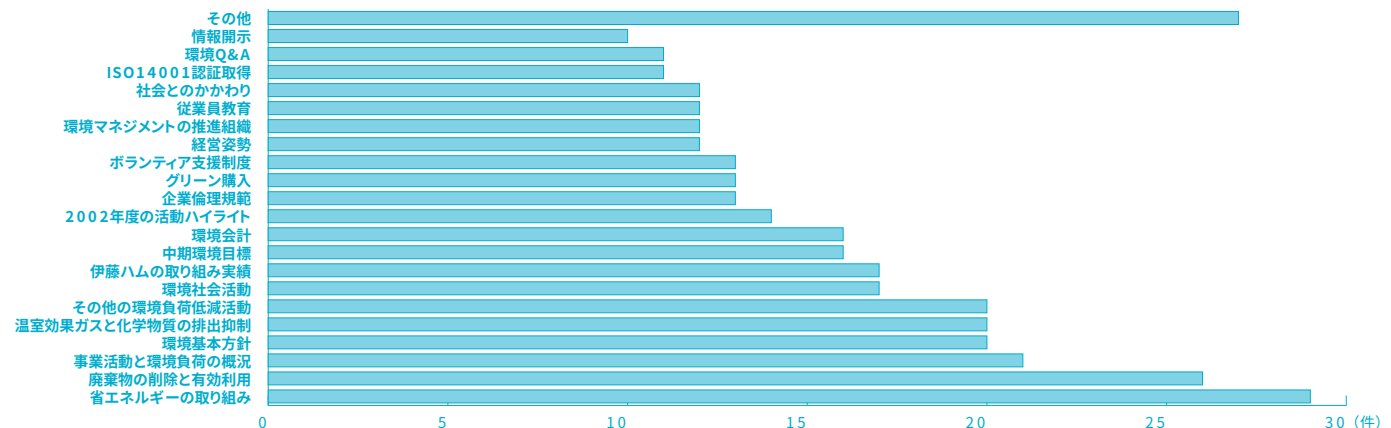
伊藤ハム株式会社 環境安全推進室 〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4-27
TEL: 0798-66-1289
FAX: 0798-64-1148

「2003年環境報告書」アンケート集計結果(回収数67通)

1.「2003年環境報告書」の評価グラフ



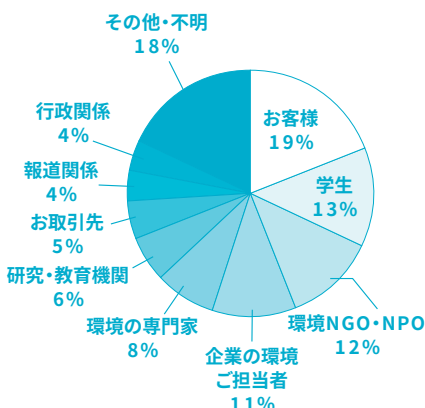
2.「2003年環境報告書」の中で興味を持った内容（件数:回答総数362件の内訳）



3.環境保全活動について



4.環境報告書をどのようなお立場でお読みになられていますか。



5.「2003年環境報告書」や環境保全活動についてのご意見の一部をご紹介します。

- 環境保全活動を徹底して行っている。● 馴染み深く思えた。
- 商品の包装材の減量、有害物質の除去など環境負荷低減についてよくわかりました。
- 「分別を徹底し」とあるがどのように徹底しているのか具体的な記述があったほうがわかりやすい。
- 専門家が読んでも納得できる「本格的な」項目を期待したい。
- 作りっぱなし、売りっぱなしではなく環境問題に積極的に取り組む姿勢に敬服しました。
- 環境マネジメントの内容がもう少し少ないように感じました。● 安全第一で消費者との信頼関係を大切にしてほしい。
- 環境監査を確実に実施してほしい。● TOPICSが印象的で良かった。
- 環境にやさしい製品（サービス）の開発を期待する。● 地球にやさしい企業を目指して従業員一丸となって取り組んでほしい。
- 地域の人も参加して環境について考えられるようなイベントを企画してほしい。● もっと環境に対して社外PRすれば良い。
- もっと多くの方が環境への取り組みを知ることができるよう情報開示の方法を工夫してほしい。
- 経営理念などから社会的信用を得た社会に貢献している企業であるという価値観を持ちました。
- 目標は理想を掲げるだけでなく極力達成してほしい。
- 環境保全活動において他社と「差別化」できるものがあれば、もっとアピールしても良いのでは。
- より一層の環境活動の取り組みを期待する。● 環境活動だけでなく社会貢献活動も熱心にされているところが良い。
- 地球環境とのかかわりが重要であると感じました。

「2004年環境報告書」アンケート

● ご意見・ご感想をお聞かせください。 ●



伊藤ハム株式会社 環境安全推進室 行き

〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4-27

FAX 0798-64-1148

Q1. 本報告書をお読みになったの評価をお聞かせください。

- | | | | |
|--------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| ● 内容 | ☐ わかりやすい | ☐ 普通 | ☐ わかりにくい |
| ● ページ数 | ☐ 多い | ☐ 適当 | ☐ 少ない |
| ● デザイン | ☐ 良い | ☐ 普通 | ☐ 悪い |
| ● 活動項目 | ☐ 充実している | ☐ 普通 | ☐ 不足している |

Q2. 本報告書の中で、興味をもった内容についてお聞かせください。(複数回答可)

【会社基本項目】1)ごあいさつ 2)経営方針 3)コンプライアンス 【環境報告】4)環境基本方針 5)3ヵ年計画の取り組み結果と自己評価
6)私たちと環境との関係 7)2003年度の活動ハイライト 8)環境マネジメントの推進組織 9)環境監査の実施 10)ISO14001認
証取得 11)グリーン購入 12)関係法規及び法の遵守 13)環境クレーム・事故 14)緊急時の対応策 15)環境会計
16)省エネルギーの取り組み 17)温室効果ガスと化学物質の排出抑制 18)廃棄物の削減と有効利用 19)その他の環境負荷低減活
動 20)従業員教育 21)情報開示 【社会性報告】22)社会貢献活動基本方針 23)森林保護活動 24)クリーンアップ活動
25)ユニセフ支援活動 26)被災地救済支援活動 27)ボランティア活動 28)社外関連団体への参加 【環境データ集】29)伊藤ハム
グループの環境データ 30)サイトデータ 31)環境保全活動の沿革 32)絵で見る伊藤ハムの環境活動・工場見学

Q3. 弊社の環境保全活動について、どのようにお感じになりましたか。

- 1) 非常に評価できる 2) 評価できる 3) 普通 4) あまり評価できない
5) 全く評価できない
その理由

Q4. 弊社の環境活動及び環境情報開示について期待されることは何ですか。

.....
.....
.....

Q5. 本環境報告書をどのようなお立場でお読みになられていますか。

- ☐ お客様 ☐ お取引先 ☐ 製品の購買ご担当者 ☐ 株主 ☐ 金融・投資機関 ☐ 研究・教育機関 ☐ 報道関係
☐ 行政関係 ☐ 環境NGO・NPO ☐ 伊藤ハムグループ事業所の近隣にお住まいの方 ☐ 学生 ☐ 環境の専門家
☐ 企業の環境ご担当者 ☐ その他()

Q6. 本報告書の内容や環境保全活動全体に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

.....
.....
.....

ご協力ありがとうございました。さしつかえなければ、下記にもご記入ください。

お 名 前			性別	男・女	年齢		ご職業・勤務先	
ご連絡先	ご 住 所	〒						
	T E L							
	F A X							
	e - m a i l							

● 次年度の環境報告書の送付を希望されますか？ ☐ はい ☐ いいえ